

(b) The enemy's force was superior *to ours*.

(理由) 'Superior', 'inferior' など所謂 *Latin Comparative* の次には 'than' は用ひずして常に 'to' を用ふる、それから後の 'our' は實は 'our force' の意味であるから 'our' では不可である。

(c) A number of *ships were* captured.

(備考) 'Ship' と単数ではいづれにしても不可であるが、その後の動詞を単数にするか否かに就ては多少の説がある、現に *Union Readers* IV. の p. 49 には

.....at which a number of ladies and gentlemen from the city was present.

と云ふ例もあるやうな譯で、成程嚴正に言へばこの動詞の主語は '(a) number' でしかもそれは形は何處までも単数であるけれど、しかし一方から言へばこの 'a number' は形こそ単数なれその意味はどうも矢張複数であるやうにもあるし、又更に他の方面から考へると 'a number of' は結局單に 'some' と同義の一の形容詞の働を爲して後の 'ships' を形容詞し、従つて本文の事實上の主語は矢張 'ships' であると視て此處は 'were' と複数にすると云ふのも一説であらう。兎に角何れにせよこんな厄介な代物を出して受験生を苦しめるとは甚だ怪しからぬことゝ考へる。

(d) Don't write a letter *in* red ink.

(参考) Write *with* a pencil.

「鉛筆で書け」

Write *with* pen and ink.

「ペンとインキとで書け」

208. (a) I wish I *were* as learned as *he*.

(理由) 'I wish' がかく現在に於ける時は願を表す時にはその後には常に *Subjunctive Past* を用ふ、それから 'he' は實は 'he is learned' の略であるから 'him' では不可である。

Having finished the letter, *he (I) posted it* at once.

(b) *Having been finished*, the letter was posted at once.

(理由) こんな場合にはその後の句の主語が亦その *Participle* の意味上の主語でなければならぬのに、本問の儘ではその手紙を書き終へたもの即ちその意味の上の主語は 'he' (I) であるにも拘らず後の方は 'it (=the letter)' となつて居て具合が悪い故是非共上に掲げた二通りのどれかに直してそしてその主語を同一にしなければならぬ。

209.

Having read the book, *he (I) threw it* aside.

Having been read, the book was thrown aside.

(理由) 前問 (b) に同じ。

210. (a) The rain *ceased* yesterday.

(理由) (195 a) 参照。

(b) There will be *an* eclipse of the moon next month.

(理由) 'Eclipse of the moon' 「月蝕」は之丈けを一つに纏めて考へるから冠詞は不定冠詞である。

(c) Water is changed *into* steam by heat.

(理由) 'Change' の後には 'to' の來ることもいではなけれど變化したる結果は普通 'into' で表す。

(d) This book is *made* of leather.

(e) He *has* returned to his father's house.

211. (a) *This* kind is the best.

(b) On the garden seat (*there*) *were* his book and pencil.

(c) Let each see to *his* own—

〔理由〕 ‘Each’ など云ふ語は男性であるか女性であるか分らないから八益しく言へばこんな場合にも實は ‘his or her’ とすべきである、けれどもそれでは餘り面倒であるからとてその中を取つてかく ‘their’ と複数にする人もあるけれど、これは寧ろ ‘man’ 「人間」と云つて男、女を兼ね、‘horse’ と云つて牡馬、牝馬を兼ねる具合に ‘his’ を以てその双方を兼ねさずが普通である。それは兎も角此問題も亦中學卒業生に課するものとしては矢張多少不適當だとの非難は免れまい。

212. (a) The boy *had been* sick for a week when the doctor was sent for.

〔理由〕 (162 a 及 188 g) 参照。

(b) The books are *hers*, not *ours* or *yours*.

〔理由〕 ‘Hers’, ‘ours’, ‘yours’ の如き文法上所謂所有代名詞には Apostrophe は不要である、それからこんな場合には後の ‘nor’ を生かせば前の ‘not’ は ‘neither’ とし、前の ‘not’ を生かせば後の ‘nor’ は ‘or’ とするがよい、但しこれに就ては多少異説もあるし旁之も中學卒業程度の試験問題としては稍當を得ないと思ふ。

(c) From the resemblance, I took it to be *him*.

〔理由〕 本文は「似て居たものだから、それを彼であると思つた」と云ふ意であるが、文中の ‘it’ は一寸變に見ゆるけれど ‘it’ は性、人稱、數に關係なく ‘It is I’, ‘It is you’, ‘It is they’ など、用ふるから之は誤ではない、之に反して後の ‘he’ は誤で之は是非共 ‘him’ としなければならぬ、一體この文は「私はそれを彼だと思つた」と云ふのであつて後の ‘he’ は文法上所謂 Complement, しかも動詞 ‘took’ の Object なる ‘it’ と同じものを表す Complement 即ち Objective Complement と稱するものであるから此處は是非共 ‘him’ と Objective Case にしなければならぬ。

比較:—

{ I thought it to be *him*. (Objective Complement.)
{ I thought that it was *he*. (Subjective Complement.)

(d) 此儘でもよし

〔理由〕 こんな場合に文法家によつては ‘to have returned’ の如き Perfect Infinitive を用ふるは誤で是非共 Simple Infinitive ‘to return’ を用ひなければならぬと唱ふる者もあるので本問の出題者も多分そんな考で之を出したものであらうと察せらるゝが、しかしそれも成程一説には違ひないけれど又一方には之でよい、否 ‘intend’, や ‘expect’, ‘wish’, ‘hope’ など云ふ動詞はその後にかく Perfect Infinitive を用ひたと Simple Infinitive を用ひたとはその意味が違ふ、即ち ‘I intended to return earlier.’ と云へば單に「つと早く歸る積りであつた」と云ふだけであつてその果して歸つたか否や不明であるけれど、‘I intend to have returned earlier.’ と云へば ‘I intended to return earlier, but did not.’ の義で實はさうしなかつたと云ふ意味を表すと唱ふる文法家もあつて、しかも此説の方が却つて有力であるらしい、従つて此處は此儘でも敢て不可とは言へないのである。兎に角中等教員の檢定試験か何かでその受験者の文法上の學說に關する知識を試さうと云ふのならばいざ知らず、たかゞ中學の卒業生相手の試験問題にこんな厄介な代物を擔ぎ出すとは亂暴も極まつて居る。

(e) Every man ought to look after *his own* business.

〔理由〕 ‘Every man’ 「人は悉く」と云へば無論單數ではあるが、しかし之を受ける代名詞は ‘his own’ としてよいか ‘her own’ としてよいか一寸困るから中間を取つて ‘their own’ など、複数にする人もあるけれど、こんな場合には寧ろ男性にして ‘his own’ とするが普通である。(211 c 参照)

213. (a) I wish I *were* as rich as he.

(b) If I *had been* there, I might have seen him.

〔理由〕 本文は實は其處に居なかつたと云ふ過去的事實あるものをそれを

「若しそこに居たら」とその過去の事實に相反する假定を表すから
かく *Subjunctive Past Perfect* を用ふべきである。

(c) He is an *Englishman*.

〔参考〕 $\left\{ \begin{array}{l} \textit{The English.} \quad \text{「英国民全體」} \\ \textit{An Englishman.} \quad \text{「英國人一人」} \end{array} \right.$

(d) *Great man* as he *was*, he failed in it.

〔理由〕「彼は偉人であつたけれども」と云ふ如く「……するとも」の意味に
用ひた '*as*' の前の名詞はその冠詞を省くと云ふのが文法の規定
である、それから '*is*' は後の '*failed*' に對する關係上矢張過去に
して '*was*' とするが適當であらう。

214. (a) My brother *goes* to school every day.

〔理由〕 '*is going*' は「今行つて居る所だ」と現在やつて居る動作を表すの
であるが、本問は後の '*every day*' に對し今現在の動作を云ふの
ではなく日々習慣的にやつて居る動作を表すのだからかく
'*goes*' と *Present Indefinite* にしなければならない。

(b) This is the house $\left\{ \begin{array}{l} \textit{in which we live.} \\ \textit{(which) we live in.} \end{array} \right.$

〔理由〕「住んで居る」と云ふは實はその中に住んで居る義である。

(c) He is a student of the commercial school.

〔理由〕學校には生徒は澤山あるから單に何學校の生徒と言つたからとて
その誰を指すかは無論分らう筈がない。

比較:—

$\left\{ \begin{array}{l} \textit{He is a student} \quad \textit{of the school.} \\ \textit{He is the principal} \quad \textit{of the school.} \end{array} \right.$

(d) That is the man (*whom*) I saw the other day.

(e) You must write *in ink*.

〔理由〕 (207 d) 参照。

(f) Do you know what *it is* made of?

〔参考〕 What *is it* made of?

(g) 'When *did you arrive* in Japan?

〔理由〕 'When' 「何時……したか」と言へば自ら或定まれる過去を表すを
以て此語のある時には *Present Perfect* は決して用ひない。

(h) Our customs are different *from* yours.

〔備考〕 "Different" の次に "*with*" や "*to*" を用ふる人もあるけれど
之は正しい用法とは言ひ難い。

(i) The man *who had* killed him was sentenced to death.

〔理由〕 他動詞を形容詞的に用ひた時には 'Houses (which are) *built* in European style' 「西洋風に建て(られ)た家」と云ふ具合に常に
Passive の意味であるから、かく「……を殺した人」など *Active* の
時には是非關係代名詞が必要である。

(j) I do not know when he *will be* here next time.

〔理由〕 本文にあつては '*when*' 以下は一の名詞句であるから未來のこと
には矢張未來の動詞を用ひなければならない。

〔参考〕 I will let you know when he *is* here next time. (副詞句)
「彼が今度來たら御知らせしやう」。

(k) Miyajima is noted *for* its fine scenery.

〔理由〕 (146 b) 参照。

(l) The 'Kawachi' is $\left\{ \begin{array}{l} \textit{larger than all the other} \\ \textit{the largest of all the Japan-} \\ \textit{ese warships.} \end{array} \right.$

〔理由〕 (187 c) 参照。

(m) He told me that he *would come* again tomorrow.

〔理由〕 その人の云つた言葉通りにして 'He said, "I will……"' とすれば
兎も角、さうでない限りは英語ではその前の動詞 '*told*' が過去に。

なつて居る關係上 'will come' は是非 'would come' とならなければならぬ、之は餘程邦語とその趣を異にして居る所で、文法上所謂 'Sequence of Tenses' 「時制の連貫」とは即ち是である。

(12) If you *had come* a little earlier, you would have seen him.

〔理由〕 (212 b) 参照。

(o) If it *rain(s)* to-morrow, I will put off my departure.

〔理由〕 「明日雨が降つたら」と云ふは未來のことで實は如何だか今から断言することは出来ないことであるから嚴格に言へば 'it rain' と *Subjunctive Present* を用ふべき筈であるけれど、今日の英語ではこんな場合にも猶ほ 'rains' と普通の *Indicative Present* を用ふことが多い、但しこれは 'it should rain' としてもよいがさうしたら「萬一雨が降つたら」の義で一層疑の度が強くなる。

215. (a) He divided the apples *among* the five boys.

〔理由〕 'Between' は二つの者の間で三つ以上の者には 'among' を用ひなければならぬ。

(b) Taro is *taller* than I.

〔理由〕 後の 'I' は實は 'I am tall' の略である。

(c) The sun *rises* at five o'clock.

〔理由〕 之は太陽の常に五時に出ることを云つたものであらうから動詞は *Present Indefinite* とすべきである。

(d) He was *very* glad to a few friends here.

〔理由〕 'Much' は原級の形容詞の前には用ひない、それからこゝはたとへ少数でも「少しは友人が有る」と有る方に重きを置くから 'few' では不可である。

(e) *Unless you try* } you will never be able to
If you do not try } master any foreign language.

〔理由〕 'Unless' は 'if.....not' の義でその中には 'not' が既に含まれて居るのである。

216. (a) Neither boy has learned *his* lesson.

〔理由〕 'Neither boy' と言へば無論一人で單數である。

(b) The boy *was accompanied* by an old lady, *whom* I thought to be his mother.

〔理由〕 'Think' は前の 'was accompanied' の過去なる以上は矢張 'thought' と過去にしなければなるまい、それから 'who' は「その人をば.....と思つた」と動詞 'thought' の *Object* であるから 'whom' とすべきであらう。

217. (a) The wind destroyed many houses *besides* the corn growing on the island.

〔参考〕 次の差に注意。

{ *Beside* 「.....の側に」
{ *Besides* 「.....の外に」

(b) *What* do you think of this book of mine.

〔理由〕 「如何思ふか」と云ふ時の「如何」は 'what' で、'how' ではない。

(c) { ((イ) If he had died, *what would have become*
 of me?
 ((ロ) If he *died*, *what would become of me?*

〔理由〕 (イ)の如くすれば「若し(あの時に)彼が死んで居たら、私の身は如何なつて居たであらう」と過去の事實に反する假定を表すことになるし、(ロ)の如くすれば「若し(今)彼が死んだら、私の身は如何なるであらう」と現在の事實に反する假定を表すことになるし、つまりそれはその時の事實如何により何れでもよいが、兎に角後の 'about' は 'of' にしなければならない。

218. (a) *Has* the ship already *been built*?

〔附言〕 但し本文は之を *Active* にして 'Have they already *built* the ship?' としても敢て不可はない。

(b) I am much *better* than I was yesterday.

〔備考〕 'I was' は強ちになければならないこともあるまいけれど 'than' の前に 'to-day' でもあれば兎も角、さうでない限りは矢張ある方が文意を明晰にする上に於て宜しいと思ふ。

(c) He is *the man who has written* this book.

〔理由〕 (214 i) 参照。

219. (a) I entrusted him *with* a large sum of money.

〔参考〕 但し本文は 'I entrusted a large sum of money *to* him' としてもよい。

(b) The lady who has just stopped singing will

go to Germany $\left\{ \begin{array}{l} \text{for the purpose of studying} \\ \text{(in order) to study} \end{array} \right\}$

music.

〔備考〕 'For the purpose of' の代りに 'with the object (or intention) of', 'with the view of', 'with a view to' などを用ひてもよい。

220. (a) I regret that $\left\{ \begin{array}{l} \text{owing to his sickness} \\ \text{as he is sick} \end{array} \right\}$, he is
absent from school.

〔理由〕 'He is sickness', 'he is absence' の不可なることに就ては (209 a) 参照, それから 'owing to' は一種の前置詞であるからその後直ぐに 'he is sick' と云ふ様な *Clause* を置くことは出来ぬ, *Clause* を置かうと思へば 'owing to' は止めて 'as' か 'because' 位を用ふるか, 又は 'owing to' の次に 'the fact that' でも入れなければならない, 序に強ひて前の 'I am' を生かさうと思へば 'I am sorry' とすればよい。

(b) Have you *ever been* abroad? No, I have *never been* there.

〔理由〕 'Have gone' は「行つた」と云ふと同時に「今現在行つて居る」と現在の状態を表す時に用ひ、「行つたことがある」と云ふ経験の意味に

は 'have been' としてその次に前置詞の 'in' 又は 'at' を用ふるのである (188 b 参照) が, しかし本文の如くその後 'there' や 'abroad' の如き副詞のある時はその 'in' も 'at' も共に不要である。次にかく疑問又は否定の「嘗て」「……したことがある」「……したことがない」と云ふ時には通常 'ever' 乃至 'never (=not ever)' を用ふる。

221. (a) I *would* not go there again if I *were* you.

〔理由〕 「僕が君であつたら」とは現在の事實に反する純粹の假定であるから 'I were' と *Subjunctive Past* を用ひなければならない, そしてその場合にはそれに準じてその結果の句たる 'I will……' も亦かく 'I would……' と *Potential (or Conditional) Past* とすべきである。

(b) $\left\{ \begin{array}{l} \text{(イ) He lives a mile distant from the town.} \\ \text{(ロ) He lives at a mile's distance from the} \\ \text{town.} \end{array} \right.$

〔理由〕 本問は(イ)と(ロ)と混合したもので随分こんな言方をする人もあるけれど文法上より言へば亦一種の誤である。

222. (a) "Take *some* more coffee," said A. "No, thank you; I *have had* enough," said B.

〔理由〕 他人に物を薦むる時は(よしや疑問でも)常に 'some' を用ひる, それから後の方の部分に於て「イヤ, 有難う」は實は「イヤ, もう澤山だ」'No, I do *not* want any more' 位の心持であるから 'yes' では不可である, それから最後の所は「もう充分頂戴した(それ故もう欲しくない)」と現在の状態を示さねばならぬ故單に 'had' と過去では不可である。

(b) I shall *have been* studying English *for* ten years *by* next June.

〔理由〕 本文は「来る六月で丁度十年英語を勉強して居ることになる」と云

ふ意味であるから動詞を未来完了にし、同時に 'during', 'till' をそれぞれ 'for', 'by' に改む。

223. (a) I am fond of this five-year old horse.

〔理由〕 'Fond' の後には 'of' が御定まり、それから 'five-year old' の如く数語合して一の形容詞の働きをなすもの即ち文法上所謂 Compound Adjective はたとへ複数でも 's' は附けない。

〔類例〕 A hundred-yard race; an eight-days clock.

(b) If he had looked at me, I would have spoken to him.

〔理由〕 'Look' は本来自動詞であるから「……を見る」と云ふ時にはその次に 'to' が必要である、それから本文は前が「若し彼が(その時に)僕を見たら」と過去の事實に反対する假定を述べる爲め Subjunctive Past Perfect になつて居るから後の方の部分も亦それに準じて 'would have spoken' と Potential (or Conditional) Past Perfect とならなければならない。

(c) As the sun has set, we had better start for home.

〔理由〕 'Sun' の前には通例常に定冠詞を附し、'home' の前には之を省く、それから 'had better' の後には 'to' なき Infinitive 即 Root を附するが御定まり。

224. (a) The number of the horses is seven.

〔理由〕 この文の實際の主語は 'number' であつて 'of the horses' は單に之を修飾せるものに過ぎない、けれども 'horses' が動詞の直ぐ前にある爲めについそれに引きつけられそれを主語と誤まつて動詞を複数にしたもので、従つて 'are' は無論 'is' としななければならない。次にこの 'horses' は實際の事實を考へて見て多分定まつて居るものと思はれるから定冠詞を附した。

(b) How long shall we have to wait for him?

〔理由〕 さうすまいと思つてもさうしななければならない時は仕方がない、つ

まり必要、不必要は意志によつて左右することは出来ないから、どんな場合には一人稱にあつては 'will' を用ふことは出来ない、それから「待つ」と云ふ語は日本語では他動詞であるけれど英語では自動詞で之を他動詞にするにはその次に 'for' が入用である。

比較:—

{ To wait for 「待つ」
To wait on 「侍る」

(c) My uncle returned a fortnight ago.

〔理由〕 「二週間前に」と定まれる過去を示す語がある以上は 'has returned' と Present Perfect を用ふる譯には行かない。(196 a 参照)。

225. (a) Every man has a right to defend himself.

〔理由〕 (212 e) 参照。

(b) Do you know whom you are speaking to?

(c) The house is without any furniture.

〔理由〕 'Without' は 'not with' の義で其中に既に打消の意が含まれて居るから此上更に 'no' を附する必要はない。

226. (a) They got on the carriage and rode away.

〔理由〕 前の 'got' との関係上後の動詞も亦 'rode' と過去になつて居なければならない。

(b) He is as tall as his brother, but not so tall as I.

〔理由〕 「...程」と云ふ時は肯定には 'as.....as', 否定には 'so.....as' を用ふるが一般の規則である。

(イ) Alarmed at the news, they launched the boat at once.
(ロ) They were alarmed at the news, and the boat was launched at once.

〔理由〕 (203 b 及 209) 参照。

227. (a) I am *very* fond of *hunting*.

(理由) 普通の形容詞の前には 'very much' は用ひない, それから 'fond' の後には 'of' が付きものである, そして 'of' の如き前置詞の次には 'to hunt' の如き *Infinitive* は用ひられないので是非名詞の働をなす *Gerund* 'hunting' としなければならない。

(b) Will you kindly *lend* me your knife?

(理由) 「……して呉れないか」と云ふ時は無論先方の意思に訴へて居るから 'shall' では不可である。

(c) *Some* one has come here in my *absence*.

(理由) 'Any one' は「誰でも」と少しも定まらざる意味で此處には當らぬ, 此處は是非 'some one' 「誰かと」自ら定まれる人を表すことにしなければならない, 次に 'absent' は形容詞で 'I was absent' など云ふ時に用ふるもので此處には無論不可である。

(d) I was born in the *province* of Musashi.

(理由) 「生まれる」は 'to bear' の *Passive* でなければならない, それから 'country' は「日本の國」「支那の國」など云ふ時の國で「武蔵の國」「若狭の國」など云ふ時の國は 'province' でその前置詞は常に 'in' である, 但し此 'in the province of Musashi' は 'in Musashi province' としてもよい, 但しさうすれば冠詞は不要である。

228. (a) When *did* you *arrive at* Yokohama?

(理由) 此場合に 'Have you arrived' の不可なる所以は (214 g) 参照, それから 'arrive at' に就ては (133 a) 参照。

(b) I arrived there *on* the 10th of *last* month.

(理由) 「幾日」と云ふ日の前には 'on' が御定まり, それから 'last' を「此の前」即ち「先」の意味に用ふる時は冠詞は附けない。

(参考) 'The last Sunday of last month' 「先月の最後の日曜」。

(c) I wish to see you again before you *start*.

(理由) 邦語では「君がまだ立たぬ中に」と常に否定に言へど英語では「君が立つ前に」と云ふ風に常に肯定に言ふが習慣である。

(1) The Aki is *the* largest of *all the* Japanese battleships.
(d) (ロ) The Aki is *larger than* all the other Japanese battleships.

(理由) 最上級の時には常に 'the' を要す, その他のことに就ては (202 a) 参照。

(e) The rain prevented $\left\{ \begin{array}{l} \textit{me from going} \\ \textit{my going} \end{array} \right\}$ there.

(理由) 'Prevented' の後には 'to go' と云ふ風に *Infinitive* を置くことは出来ない。

(f) The meeting will begin *at* seven o'clock *this* evening.

(理由) 「何時々々から始まる」と云ふ時, 前に 'begin' を用ひたらその次の「から」は 'from' ではない, 時間なら 'at', 日なら 'on' を用ふること普通の「何時々々に」と云ふ場合と同じ。

(g) I wish very much to *enter* the Naval College.

(理由) 単にどこそこへはいるとか入學するとか云ふ意味の 'enter' は今日の英語では通例他動詞でその次に 'to' も何も要しない。

(h) He inquired *who had done it*.

(理由) (195 a 及問題之部三十七頁) 参照。

(参考) He said, "Who has done it?"

(i) Kyoto is not *so* ancient *a* city as Nara.

(理由) (226 b) 参照。

229. I. Parliament *have* met to elect their speaker.

(理由) この 'parliament' は「國會議員」即ち 'the members of parliament' の義で文法上所謂 '*Noun of Multitude*' と稱し, 形は單數でもその意味は複數であるから之を主語に用ひた時はその動詞も亦 '*have met*' と複數にしなければならない。

2. *The Fuji is a ship (that was) built in England.*

3. *I (have) heard that many fishes are caught here.*

〔理由〕この 'fish' は澤山の魚とその数を云つたものであるから 'many' を用ひなければならぬ、但し 'fish' は単数の形で複数の意味にもなれる、それから 'are catch' は無論 'are caught' と *Passive* にしなければならぬ。

4. *This is the man (whom) I met yesterday.*

〔理由〕(198 a) 参照。

230. 1. *He asked if there was a foreigner living here.*

〔理由〕(問題之部三十七頁) 参照、序に後の 'here' は若しその人の問うた所と今かく云つて居る所と違へば 'there' とすべきである、それから本文は亦之を直接話法 (*Direct Narration*) に變じて *He asked, "Is there a foreigner living here?"* とするも差支へはない。

2. *If I were to swallow this poison, I should die.*

〔理由〕'If I were to.....' は「若し.....したら」と未來の動作に関する純粹の假定であつて、しかもその毒を仰いだ爲めに死ぬると云ふはそれは自然の結果で無論意志の左右し得べきものでないから 'I shall' の過去形なる 'I should' を用ふべきである。

3. *I am sorry I did not go. I wish I had been there.*

〔理由〕實は「行つて居なかつた」と云ふ過去の事實あるものを「行つて居ればよかつた」と、その事實に反して叶はぬ願を述べ自ら遺憾の情を表して居るからかく 'had been' と *Subjunctive Past Perfect* を用ふべきである。

比較:—

{ *I wish I knew it* = *I am sorry I do not know it.*
{ *I wish I had learned it* = *I am sorry I did not learn it.*

4. *He is very ignorant. He does not know anything (= he knows nothing.)*

〔理由〕'Everything' を用ふれば「委くは知らぬ」即ち「知つて居ることもあるが知らぬこともある」の意となつて題意に合はない。

5. *I will give it to whoever (= anyone who) wants it.*

〔理由〕成程前にある前置詞の 'to' に對しては 'whomever' で宜しい様であるけれど、'whoever' などの如き文法上所謂複合關係代名詞は先行詞としての關係によつて即ちその前の方の關係によつてその格を定めず、關係代名詞としての關係即ち後の方の關係によつてその格を定むると云ふのが文法上の規則である、更に分り易く言へば之を分解して 'any one who' を要する時は 'whoever' を用ひ、'any one whom' を要する時は 'whomever' を用ふるのである。

231.

A. *Did you go to Kobe yesterday?*

B. *No, I went home.*

〔理由〕此場合の 'home' は一種の副詞であつてその前に前置詞は要しない。

A. *Have you graduated from (or at) the Osaka Higher Technical School?*

B. *No, I have just entered that school.*

〔理由〕(228 g) 参照。

A. *Are you not an American?*

B. *No, I am not.*

〔理由〕(160 a) 参照。

232. a. *The book is on the table.*

〔理由〕'Up' は「木の上(の方)に鳥の巢がある」など單に「上の方に」の意

味であるから此處には當らない、此處はどうしてもその表面に接觸して居る意味の 'on' でなければならない。

b. He landed *at* Yokohama *in* Japan.

c. *Is* the water *of* this well *not* good? *No*, it is not good.

〔理由〕 (160 a) 参照。

d. I was told that he *had been* killed in the battle.

〔理由〕 打死せしむとはその「聞いた」 'was told' と云ふことよりは更に前であるから大過去にするのである。

e. If I had been you, I *would* have gone there already.

f. *Will* you kindly take this gentleman *into* the room?

〔理由〕 (227 b) 参照。

(g) $\begin{cases} \text{I came just now.} \\ \text{I have just come.} \end{cases}$

〔理由〕 'Just' のみならば動詞を *Present Perfect* にし、'just now' ならば *Past* とするが一般の慣用法である。

233. (a) *The moon shines* bright.

(b) *This apple tastes* sweet.

〔理由〕 後の 'sweet' は自らその主語たる 'apple' の性質を述べているからこんな場合に副詞の 'sweetly' を用ふるは不可である。

(c) *The boy has been* sick for a week now.

〔理由〕 之は現在迄の繼續を表すから *Present Perfect* でなければならない。

(d) He is not *so* tall as I.

〔理由〕 (226 b 及 208 a) 参照。

(c) *Have you been* in England?

〔理由〕 (220 b) 参照。

(f) I *shall* be unhappy then.

〔理由〕 感情は人の意志では左右することが出来ないからこんな場合一人稱に 'will' を用ふるは不可である。

(g) He said he *had seen* Tom *the day before* (or *the previous day*).

〔理由〕 「彼の Tom に會つた」のはさう「云つた」 'said' より更に前であるから大過去にしなければならぬ、それから最後の 'yesterday' は若し彼のさう云つた日と今かく云つて居ると同じ日であるならば此儘でよい。

(h) I have *caught* cold.

〔理由〕 'Catch' の (過去及び) 過去分詞は 'caught' で 'catched' と云ふ語はない。

(i) I wanted *an* umbrella, but nobody had *one*.

〔理由〕 (175 a) 参照。

(j) *Last night on* my way *home* I *lost* my gold watch.

〔理由〕 'Last night' には冠詞は不要、「私の……する途中で」は 'on my way' で 'in my way' は「私の邪魔になる」義である、それからこんな場合の 'home' は言はゞ一種の形容詞乃至副詞でその前に前置詞はいらない、最後に前に 'last night' とあるから 'lose' は無論 'lost' と過去にすべきである。

234. (a) I *was* *much* surprised to hear it.

〔理由〕 現在分詞ならばよけれど 'surprised' の如き過去分詞の形容詞的に用ひられたるものには 'very' は ('very much' として用ふる

外(單獨には)用ひないで 'much' を用ふる、但し 'I am very tired', 'I am very pleased' の如きは言はゞ一種の例外で今日では一般に用ひられて居る様だ。

比較:—

I heard a *very surprising* news.
 (現在分詞の形容詞として用ひられしもの)
 I was *much surprised* at the news.
 (過去分詞の形容詞として用ひられしもの)

(b) He explained his meaning *very clearly*.

〔理由〕 この 'clearly' は前の動詞 'explained' に係りその説明の仕振りを示すから形容詞の 'clear' では不可である、それから 'much' は副詞を用ふる時はその副詞が比較級か最上級である時のみで原級の時には用ひない。

〔参考〕

{ The meaning is *very clear*.
 { He explained it *much more clearly* than I.

(c) Of these houses *yours* is *the very highest*.

〔備考〕 本文は之を 'much the largest' としてもよい。

(d) Of these houses *mine* is *much the largest*.

〔理由〕 'The very largest' とは言ふけれど 'the much largest' とは言はない。

(e) *Don't* you know *who* has taken my knife?
No, I don't.

〔理由〕 (160 a) 参照。

(f) *Have* you not finished your work yet? *Yes, I have.*

〔理由〕 (160 a) 参照。

(g) There was *once* a very clever boy who could answer any question.

〔理由〕 'Ever' を「嘗て」の義に用ふるは疑問か、'if' の後か又は否定

の時のみで普通の肯定の時は 'once' を用ひなければならぬ。

(h) The moon rose *at twelve o'clock in the night*.

235. (a) He had a bag of *rice*.

〔理由〕 'Rice' は物質名詞で従つて複数形はない。

(b) There are many *spots* of *dirt* on the wall.

〔理由〕 複数となるべきはその 'spot of.....' であつて、'dirt' そのものは亦一種の物質名詞で複数形はない。

(c) Do you know *who* he is?

〔理由〕 文中の 'who' は「彼は誰であるかを.....」と後の方の *Subjective Complement* であつて決して前の 'know' の *Object* ではないから 'whom' と *Objective Case* にしてあるは誤である。

(d) The pine is a kind of *tree*.

〔理由〕 'A kind of', 'a sort of' など云ふ文句の後に來る名詞には通例冠詞を附けない。

236. (a) *Have* you *been* to school to-day.

〔理由〕 「通學」の意味の時の 'school' の前には冠詞は不要、それから 'gone' を 'been' としたるに就ては (188, 220) 参照、但し本文は之を過去にして 'Did you go to school to day' としても敢て不可はない。

(b) *The students* of *this class* are *diligent*.

〔理由〕 (202 d 及 201 a) 参照。

(c) *I have been* working at *this* during the last five hours.

〔理由〕 (162 a) 参照。

237. (a) One must be faithful to *one's* duty.

〔理由〕 前に 'one' を用ひたらその後にも矢張 'one's' を用ふると云ふのが文法の普通の規則である。

(b) I will give it to *whoever* wants it.

〔理由〕 (230 5) 参照。

(c) $\begin{cases} \text{I have just finished it.} \\ \text{I finished it just now.} \end{cases}$

〔理由〕 (232 g) 参照。

(d) The elephant *lives* in India.

〔理由〕 「住んで居る」など自ら繼續的狀態を示す動詞は通例 *Progressive Form* を用ひない。

〔参考〕 He *is* still living.

「彼はまだ生きて居る。」

(e) Mount Fuji *is* in Suruga.

〔理由〕 山名には冠詞は不要。

(f) He has *a* useful knowledge of the subject.

〔理由〕 'Useful' は母音で始まって居ても此場合の 'a' は 'you' と子音の音が出るから 'a' を用ふ。

(g) I like to walk in *the* wood(s).

〔理由〕 'The fields', 'the air', 'the water' など云ふ語には通例常に定冠詞を附する。

238. (a) He will not listen *to* what you say.

〔理由〕 'Listen' は自動詞で 'to' を伴うて始めて他動詞となるのである。

(b) I was *much* surprised to receive such a letter.

〔理由〕 (234. 1) 参照。

239. (a) He has *studied* English twice *as* long as I.

〔理由〕 'Study' の(過去及)過去分詞は 'studied' ではない。それから 'so' を 'as' に變じたに就ては (226 b) 参照。最後に 'I' は實は 'I have studied it' の略であるから 'me' ではない。

(b) I *entered* this school last year.

〔理由〕 (196 a 及 228 g) 参照。

240. (a) I wish that I *were* as wise as he.

〔理由〕 (208 a 及 213 a) 参照。

(b) *Most* children go to bed early.

〔理由〕 'Most' を「大概の」「大抵の」と云ふ意味に用ふる時は冠詞は附けない。

比較:—

$\begin{cases} \text{Most learned men 「大概の學者」} \\ \text{The most learned men 「一番の學者」} \end{cases}$

それから 'go to bed' は一つの極り文句でたとへその前の主語は複數でもこれは通例複數にはならない。

241. (a) I have heard him *say* so.

〔理由〕 (190 a) 参照。

(b) 本問は此儘でも差支なし。

〔備考〕 出題者は之を 'They asked him a question' とさす積りかと思はる。成程 'They asked a favour of him' と云ふ風に 'ask' の後に 'of' のある時は普通「乞ふ」の意味ではあるけれど亦本問の如くして「問ふ」の意味に用ふることもないでもない。

(c) It is you that *are* mistaken, not I.

〔理由〕 'It is—that……' 「……して居る者は——だ」と云ふ構文に於ては文中の 'that' の次にある動詞は常にその 'that' の前なる語の人稱・數に従ふと云ふことに定まつて居る。それから後の 'I' は前の 'you' と同じく '(It) is……' に對する *Subjective Complement* であるから 'me' と目的格ではいけない。是非共 'I' と主格にしなければならぬ。

(d) He is reported to *have been killed* in the late war.

【理由】下の差に注意すれば本文の誤れることは自ら分るのであらう。

比較：—

{ He is said to be rich, (現在のこと)
(=It is said that he is rich.)
He is said to *have been* rich, (過去のこと)
(=It is said that he *has been* (or *was*) rich.)

242. (a) *The boys of this class are diligent.*

【備考】本文は(36の)に殆んど同じ。

(b) Keep the water *hot*.

【理由】この場合の '*hot*' は自ら名詞 '(the) water' の性質を表すから副詞 '*hotly*' では不可である。

243. (a) If I knew the truth I *would* tell it you.

(b) He is the man *who* I believe did it.

【理由】文中の '*who*' は一寸見ると '*believe*' の *Object* の如く見えるけれど實は矢張後の '*did*' の主語であつて '*I believe*' なる句は單にその間に挟んであるに過ぎないのである。

244. (a) The ship is built of *iron*.

【理由】 '*With*' は '*He was shot with a pistol*' 「彼はピストルで撃たれた」と云ふ如く「で」は「で」でもそれに用おし道具を表す。然るに此場合は「船は鐵で作る」とその造船の材料を表さねばならぬから '*of*' としなければならぬ。

(b) He is superior *to* all the *other* boys.

【理由】 '*Superior*', '*inferior*' 等の後には '*than*' は用おらずして常に '*to*' を用ふ。

(c) I *saw* an elephant three years *ago*.

(d) { (イ) Being too difficult, *the book is not liked*
by me.
(ロ) *The book being* too difficult, I do not like it.

【理由】分詞の意味上の主語が特に現はれ居ない時は、それはその主なる句(即ち本文では '*I do not like it*') の主語とは常に同じものである筈である。だからしてもしそれが同じものたることを得ない場合には是非本文の如くその意味上主語をその前に付けねばならぬ(208b及209参照)但し本文は '*I do not like the book, for it is too difficult*' としても無論文法上差支はない。

(e) If it *had* not been for you, he *would* have failed *in* the examinations.

245. (a) He is the *worst* scholar.

【理由】最上級の語の前には通例常に定冠詞を附す、但し最上級の語と雖も '*most*' を附して單に「非常に」の意味の時には不定冠詞を附することがある。

比較：—

{ He is *the bravest* of them all. 「最も勇敢な」
He is *a most brave* man. 「頗る勇敢な」

(b) He has not procured *any* bread.

【理由】否定の時には '*some*' は用おない。

(c) He was *much* surprised at seeing me.

【理由】(234. i.) 参照。

(d) He said that he *had seen* this man long *before*

〔理由〕 彼の見たのはかく云つたよりは以前であるから 'had seen' と大過去にしなければならぬ、それから本文の「ずつと前」と云ふは「今よりずつと前」と云ふのではなく「さう云つた時よりずつと前」と過去の更に過去を表すから 'ago' では不可である。

(c) He is standing *beside* his mother.

〔理由〕 (217 a) 参照。

246. (a) She *had been* ill for two days, when the doctor was sent for.

〔理由〕 (163 a 及 212 a) 参照。

(b) Edison *invented* the phonograph, after he had *discovered* certain laws and phenomena of sound.

〔理由〕 'Discover' は是迄有ることは有つたけれど見へなかつたものを現はす即ち「発見する」義で、'invent' は是迄無かつたものを作り出す即ち「發明する」義であるから本文はつまりこの二つの語の用法を顛倒して居るのである。

(c) The knight *lay* dead on the ground.

〔参考〕 次の差に注意。

{ Lie (横たはる)	lay	lain (自動詞)
{ Lay (横たへる)	laid	laid (他動詞)

(d) 本文には誤なし。

〔備考〕 一寸考へると 'all eagerness' が變な様であるけれど之は之で 'very eager' の義で正しいのである。

247. (a) There was a war between Japan and Russia five years *ago*.

(b) I *slept* well last night.

〔理由〕 'Slept' と云ふ語はない、'sleep' の過去は 'slept' である。

(c) *During* our voyage the sea was rough.

〔理由〕 'While' は接續詞であるからその次にかく名詞の來ることは出来ない、必ず句が來て居なければならない。

比較：—

{	He took my place <i>during</i> my absence.
{	He took my place <i>while</i> I was absent.

(d) The cow *lay* down under *the* shadow of a tree.

〔理由〕 前問に参照。

(e) It is very difficult for me to finish the work by this evening.

〔理由〕 (194 b) 参照。

(f) Are ants as industrious *as* bees?

(g) We made haste that *we* might catch the train.

(h) I am studying hard lest I *should* fail in the examination.

〔参考〕 'Not' の有無に注意。

{	I am studying hard <i>lest</i> I <i>should</i> fail.
{	= I am studying hard <i>that</i> I <i>may</i> not fail.

(i) *Most* men-of-war are now built *of* steel.

〔理由〕 (210 b 及 244 a) 参照。

248. (a) Do you think when *the examination will be* over?

〔理由〕 純粋の疑問文なら 'When will the examination be over?' と主語と助動詞と順序を顛倒するけれど、他の文に附属せる疑問文なる時はその順序は普通の文の通りである。

(b) He will have reached home already when the rain sets in.

〔理由〕 雨の降り始まることは未来のことであるのに彼は「その時には既に歸り着いて居る」と或未来の動作の起る前に完了する動作を表すを以てかく 'will have reached' と文法上所謂 Future Perfect を用ひなければならない。

249. 〔題意〕 次の語句に誤あらば之を正し、正しければその正しき理由を述べよ。

〔答〕

(a) 此儘にても宜し。

〔理由〕 かう云ふ構文には随分説があつて或人は本文の主語は何處までも 'variety' であつて 'of studies' は單にその主語を修飾して居るに過ぎないから動詞は飽く迄も單數とすべしと主張する人もあるけれど、又一方から考へて見れば 'a variety of' は畢竟するに 'various' の義であるし旁次の 'studies' との関係上よりするに 'distract' と複數にして強ち悪いとも言へまいと思ふ、亦實際さう唱へて居る文法家もある (207 c 参照)。兎に角之も亦例の無法極まる問題の一たるを失はない。

(b) Whom do you speak to?

(c) That's he.

〔理由〕 日常の談話ではこんな場合に多く 'him' を用ひて居るけれど、文法上より言へばこの場合の 'him' は所謂 Subjective Complement

で是非主格 'he' とすべきものである。

(d) 此儘でよし。

〔理由〕 (212 d) 参照。

(e) 此儘でよし。

〔備考〕 但しかゝる場合の 'to blame' は 'to be blamed' 即ち 'blamable' と自ら Passive の意味を有して居つて、つまり之は一種の Idiom である。

250. (a) London is the largest city in the world.

(b) I have not seen him since Tuesday last.

〔理由〕 (193 a) 参照。

(c) The examination begins on the 3rd instant.

〔理由〕 (238 f 及 199. 5) 参照。

(d) I shall be glad, if you will $\left. \begin{array}{l} \text{call on me} \\ \text{come and see me} \end{array} \right\}$
this afternoon.

〔理由〕 'I will' の 'will' を 'shall' に改むるに就ては (232. 6 参照) 'if you.....' が「.....して下さるなら」と先方の意志に訴へる時はその助動詞は 'will' である、それから 'call on' と言へば自ら 'come and see' の意味で 'and see' は不要である。

251. (a) Will you do me a favour?

〔理由〕 (227 b) 参照。

(b) I hope I shall succeed.

〔理由〕 (199. 3) 参照。

(c) Give me some water.

〔理由〕 'Give me.....' とか 'I want.....' とか 'I have.....' とか云ふ時はその中には自ら「いくら」と一定の數量の考が含まれて居るからかう云ふ場合にはその名詞の前に常に 'some' (若しくはそれに代るべき數量を示す言葉) を附さなければならない。

比較一

{ I like apples (定数の考なし)
 { I want some apples. (定数の考あり)

(d) *Whom* are you looking for?

(e) I *have lived* in Japan these seven years.

〔理由〕 (163 b) 参照。

(f) He has written twice *as much as* I.

〔理由〕 (189 a) 参照。

(g) Two *men-of-war* just *entered* the port.

〔理由〕 (1 及び 227 d) 参照。

252. (a) What are you *looking at*?

〔理由〕 'See' は「見へる」の義で無意識に動作を表すからこんな動詞には 'seeing' など、Progressive Form を用ふることはない。「今見て居る」と進行形にしようと思へばかく '*looking at*' にしなければならない。

(b) The news of his death *can not* be true.

〔理由〕 「……であるに違ひない」と云ふ意味の 'must' の否定即ち「……である筈がない」は 'must not' ではなくて '*can not*' である。

(c) I do not know what *it is* made of.

〔理由〕 (214 f) 参照。

(d) I *have not seen* him for a long time.

〔理由〕 「久しい前から」に對し '*from a long time ago*' は單に英語を日本語風に並べたに過ぎない、かう云ふ場合には英語では單に '*for a long time*' 久しい間とし、その代り今日迄との意味はその前の動詞を '*have not seen*' と Present Perfect にして之を表す。

(e) *A little* money is better than none.

〔理由〕 金額は多少即ち量によって計るものであるから '*few*' は不可である、それから本文は「金は少しでも無いよりはまし」と少いながら

も有ると云ふ方に重きを置いて居るから '*a little*' と '*a*' を附けなければならない。

(f) He *thinks of going*

He *intends to go*

He *thinks he will go*

} to Germany to com-

plete his studies as soon as he *finishes* the school.

〔理由〕 昔は「……する積りである」と云ふ時に '*think to……*' と '*think*' の後に *Infinitive* を用ひたけれど今日は通例此形は用ひない、それから「その學校を終へたら直ぐに」は無論未來のことではあるけれどもかく '*as soon as*' (とか '*when*' とか '*if*' とか) が前に来てさうして「……したら (直ぐに)」と云ふ風に一の時を表す副詞句 (*Adverbial Clause*) を成す場合にはたとへ未來のことでも現在を用ふると云ふのが文法の規定である。(213) 参照。

253. (a) My house is far *from* the school.

〔理由〕 「學校へ遠い」の「〜」は英語ではそれと離れることが遠い意味で '*far*' の次には常に '*from*' を用ふる。

(b) I would not go if I *were* you.

〔理由〕 (221 a) 参照。

(c) I paid *less* for my watch than you did for yours.

〔理由〕 「……より少く」と云ふのだから '*little*' はその比較級 '*less*' にしなければならない、それからこの '*less*' は前の動詞 '*paid*' の *Object* であるから寧ろかく直ぐその動詞の次へ置いた方が宜しい。

(d) I *have had* a cold since Monday last.

〔理由〕 「風を引く」は通例 '*to catch (or take) cold*' と云ふが、しかしこれは單に「風を引く」と云ふ一時的の動作か、さもなければ '*I have caught (or taken) cold*' と云ふ風に現在の状態を表す時に用ふるの

で、「何時から風を引いて居る」と云ふ風にその状態の繼續を示す時は寧ろかく 'have a cold' の *Present Perfect* 即ち 'have had a cold' とするが當然である、そして此の場合 'catch', 'take' ならば 'a' は附せず、'have' ならば 'a' を附するが一般の慣用法である。次に 'from' を 'since' に改めたに就ては (202 d) 参照。

(e) The dog barked, and children were frightened very much.

〔理由〕 'Frighten' や 'surprise' などは英語では「恐れる」、「驚く」など云ふ自動詞ではなくて、「恐れしむ」「驚かしむ」と云ふ他動詞であるから、日本語の「恐れた」「驚いた」と云ふ風に自動詞的に用ひやうと思へば 'were frightened', 'were surprised' と *Passive* にしなければならぬ。

比較：—

{ Your ignorance surprises me.
{ I am surprised at your ignorance.

251. (a) Most people can read more easily than they can write

〔理由〕 「……よりも読むことは容易く出来る」の意で文中の「容易く」は動詞の「読む」を修飾するから形容詞 'easier' では不可で是非 'more easily' と副詞を用ひなければならぬ。

(b) The officer is very popular with the soldiers.

〔理由〕 「……に人望がある」と云ふ場合 'popular' の次には 'with' が御定まり。

(c) I insisted on having the money paid.

〔理由〕 'Insist' と云ふ語の後に動詞を用ふる時はかくその後には先づ 'on' を置き、そしてその後 Gerund を置くと云ふのが一般の定まりである、尤も

I insisted that the money should be paid.

とも言へないことはい。

〔参考〕 They persisted in going in spite of the rain.

(d) He had already finished it before I had time to begin.

〔理由〕 「……する迄に彼は既にそれを終へて居た」と云ふから後の 'had' なる過去に對し 'finished' は 'had finished' と大過去にすべきであらう。

(e) He says he has never been abroad, and I have not been either.

〔理由〕 否定の時の「……も亦」には 'also' や 'too' は用ひないで必ず 'either' か 'neither' を用ふる。

255. (a) I wish a pleasant journey to you.

(b) I am afraid I shall be too late.

(c) How many miles does the train run an hour?

〔理由〕 「一時間にいくら」など云ふ時「一」には 'one' は用ひないで 'a(n)' (か若しくは 'per') を用ふるのである。

(d) { (イ) He could not bear the heat, so he had to go out.
{ (ロ) He cannot bear the heat, so he has to go out.

〔理由〕 一文中の動詞は過去ならば過去、現在ならば現在と通例皆一致せねばならぬ。

(e) He is sick and has not eaten anything for three days.

〔理由〕 (200 a 参照)。

256. (a) It is two years since I saw you.

〔理由〕 'It is—since……' 「……してから一になる」と云ふ構文：あつては 'since' の後の動詞は常に *Past Tense* でなければならぬ。

(b) If I *had* wings, I *would* fly to the moon.

〔理由〕 (221 a 及 253 b) 参照。

257. (a) He showed me two kinds, but I did not buy *either* of them.

〔理由〕 二者の中の「どちら(も)」は 'either' である。'any' は「どれ(も)」の義で三つ又は三つ以上の者の時でなければ用ひない、それから本文の後の方は 'but I bought *neither* of them' としても無論差支へない。

(b) He has not much learning, but *a little* experience.

〔理由〕 本問は「彼は學問は餘り無いが、經驗は少し有る」と「有る」方に重きを置くから 'little' では不可である。

(c) The money is to be divided *among* the three brothers.

〔理由〕 次の差に注意せよ。

{ *Between* 「二つの物」。
 Among 「三つ以上」。

(d) He said that he *was* sick.

〔理由〕 (問題之部三十七頁参照)。

(e) The new teacher *arrived* a few days ago.

〔理由〕 (224 c 参照)。

(f) I think we *shall* have no more snow this year.

〔理由〕 雪の降る降らぬは吾々の意志で左右することは出来ないから 'we will' は不可である。

258. (a) Which is the larger city, Paris or Berlin?

〔理由〕 (200 a 参照)。

(b) *Tōfu* is a kind of food (which *is*) made from beans.

259. (a) I *agreed* with him.

〔理由〕 "Agreed" が既に "agree" の過去で "agreed" と云ふ語はない、それから「誰某と意見が一致する」と云ふ時の「と」に當る前置詞は "with" である。

(b) There *were* many deer in the forest.

〔理由〕 "Deer" は單復同形で "doers" と云ふ語はない。

(c) There were *a great many* boys and each had *an* apple.

(d) Have you none? *No*, I have none.

〔理由〕 (160 (a) 参照)。

(e) Take *the* pencil that you like best.

〔理由〕 "Some pencil" は「何か鉛筆」の義で極めて不定であるが、此處は「君の一番好きな……」と自ら定まつて居るから "the pencil" とすべきである。

(f) He *is* an eminent poet and novelist.

〔理由〕 「有名な詩人兼小説家」と一人の人に就いて云つてあるから冠詞は唯だ一つで宜しい。

比較：—

{ *A black and a white cat.* 「黒と白と猫二匹」。
 A black and white cat. 「黒白斑の猫一匹」。

(g) I shall finish it *by* next Sunday.

〔理由〕 (194 (b) 参照)。

(h) This bread and butter *is* for you.

〔理由〕 之は「パンとバター」とではなく「バター付きのパン」と實は一つの物

を指して居るのであるからその動詞は "is" と単数にしなければならない。

260. (a) I think I will return home next week.

〔理由〕 この場合の "home" は一種の副詞でその前に前置詞は不要。それから "next week, (month, year)" 乃至 "last week, (month, year)" など云ふ時には前置詞は附けない。

(b) Whom did you meet a few minutes ago?

(c) The wicked woman died and her sons-in-law were delighted very much.

〔理由〕 "To be dead" の形はあるけれど "to be died" と云ふ形はない。それから "sons-in-law" に就ては i. 参照、次に "delight" は「喜ばす」の義であるから「喜んだ」と云ふ時にはかく "were delighted" 「喜ばされた」の形にしなければならない。(253 (c) 参照)。

261. (a) We were superior to the enemy in speed.

〔理由〕 "Superior," "inferior" などの後には「……に優(劣)る」と "than" は用ひないで常に "to" を用ふる。

(b) I have lived here for the last ten years.

〔理由〕 (194 (a) 参照)。

(c) It happened on the forenoon of yesterday.

(d) This town has a large population.

〔理由〕 "Population" は所謂「人口」でその住民を總稱して言ふのであるから複数ではない筈。それからかく「人口」と一括して言ふ以上はその人口の「多い」の「多い」は "many" ではなく "a large" 「大いなる」となるべき譯である。

(e) I fear I shall fail in the examination.

〔理由〕 (189 (c) 参照)。

(f) When did the Kongo put in port?

〔理由〕 船艦の名には定冠詞を要する。

262. (a) To whom did you lend my knife?

〔備考〕 "To" は矢張最後に置いてよいが、"who" は是非共 "whom" としなければならない。

(b) Them that help me, I will reward.

〔理由〕 "They" は後の動詞 "will reward" の Object であるからは "them" としなければならない。

263. (a) A few days after he had arrived in Tokyo, he was robbed of the purse in which he had put a five-yen note and some coins.

〔理由〕 132 (a), 142 (b) 及び 133 (a) 参照。それから邦語の "yen", "sen" などは決して複数にしない。

(b) The population of this town is over three thousand five hundred and fifty.

〔理由〕 "And" は百位の次に附す。

(c) The man who was wounded in the leg entered the Red Cross Hospital.

〔理由〕 "Entered" の次の "into" を除きしに就ては (228 (g)) 参照。それから病院の如き公共的の建物の名には普通定冠詞を附す。

(d) The train leaves here for Kobe every two hours.

〔理由〕 "Leaves" は他動詞だから "from" は不要。それから "to" を "for" に改むるに就ては (131 (d)) 参照。次に「一時間置き」には即ち「二時間毎に」であるからかく "every two hours" とすべき

である。尤も若し「毎時間」の意味ならそれは無論單に "every hour" で宜しい。

(e) By whom did you get (or have) your composition corrected?

〔理由〕「君が直して貰ったか」ではなく「君は作文を直して貰ったか」であるから "were you corrected" は不可である。

〔参考〕

I got him to write a letter.

「僕は彼に手紙を書いて貰った。」

之を *Passive* にすると

I got a letter written by him.

となる。

261. (a) Thank you very much for your kind invitation to dinner on Christmas-day.

(b) The children resemble their father.

〔理由〕邦語では「父に似て居る」と云ふけれど英語では "*resemble*" は他動詞で "to" は勿論 "are" も不要である。但し本文は之を單数形にして "The child resembles his father" とすることも出来る。

XI. 雑題

265. 〔題意〕次の名詞の所有格を記せ。

〔答〕

Men's, sheep's, cows', fishes', boys', oxen's, days', months, children's.

〔注意〕 'Men's', 'oxen's', 'children's' に對照して 'cows', 'fishes', 'boys' は所有格になつても此上に更に 's' を加へないことに注意。それから 'days' や 'months' は無生物だけれど猶ほ 'three days' absence 「三日間の缺席」とか 'five months' journey 「五箇月の旅行」とか云ふ様に所有格とする慣用法のあることも忘れてはならない。

266. 〔題意〕次の數を言葉で表せ。

〔答〕

(a) Five hundred and seventy-three and three fourths.

(b) Two million six hundred and thirty-five thousand.

〔注意〕「何千何百」と定まれる數を云ふ時は 'thousand' や 'hundred' を複數にしないこと、'and' は單に百位の次、即ち十位の前と分數があればその分數の前とにのみ附し、通例千位の次には附けない。但し 3045 (=three thousand and forty-five) と云ふ如く百位が零ならば無論 'and' は千位の次にあるけれどこと、'seventy-three', 'thirty-five' と云ふ風は「何十幾つ」と云ふ場合にはその十位の數と一位の數との間に *Hyphen* を落さぬこと、それから最後に英語の分子は 'one', 'two', 'three' の如き普通の基數 (cardinal) であり、分母は通例 ('half'), 'third', 'fourth' (or 'quarter'), 'fifth' など、序數 (ordinal) を以て表し、しかもその分子が二以上である時は

$\frac{1}{3}$ = one third

$\frac{2}{3}$ = two thirds

と分母の方を複數にし、おまけに邦語とは順序が反對で分子の方を先に云ふことに注意。

267. 〔題意〕次の數字を完全に言葉で記せ。

〔答〕

(a) One thousand nine hundred and thirteen.

(a) Two hundred and fifty-one and two thirds.

263. (a) は「私は彼にその年齢はいくつであるかと問うた」の意であるから、この場合の 'what' は疑問代名詞を接續的に用いたもの、即ち文法上所謂接續的疑問代名詞 (Conjunctive Interrogative Pronoun)。

(b) は「彼は(以前に)ありし所のものではなかつた」即ち「彼はありし昔の人ではなかつた」「大分様子が變つて居た」の意で 'what' は 'that which' の義の一種の關係代名詞 (Relative Pronoun) である。

269. 文中の "whom" の antecedent は言ふ迄もなく前の "(Captain) Smith" で、そして "of whom" は「之が即ちその人の寫眞である」と自ら後の 'photograph' を modify (制限) して居るのである。

270. 文中の "which" の antecedent は無論前の "(a deserted) house" で、そして "of which" は「その屋根の落ち込んだ空家」と自らその直ぐ前なる "roof" を modify して居るのである。

271. (a) は「今朝僕はスミスさんに會うたら、此の本を呉れた」の義で、文中の 'who' はつまり 'and he' と接續詞と代名詞とに書き換へることが出来る、換言すれば "who" 以下の句は單にスミスさんのことに就いて更に或事柄を附け加へて説明したに過ぎないので、たとへこれだけの何が無くても全文の意味にはさして不都合は生じない、關係代名詞をこんな風に用いた場合を文法上その關係代名詞の接續的用法 (Continuative Use) 乃至説明的用法 (Explanatory Use) と稱する。

(b) は (a) とは趣を異にし「それが即ち僕に今朝此本を呉れた人である」の意で、'who' 以下の句は「.....した人」と前の 'man' を制限し此文としては是非とも無くて叶はぬ句である、そしてこんな場合の關係代名詞をば文法上關係代名詞を制限的に用ひてある (Restrictive Use) と謂ふのである。

272. Adjective を用ふべく、adverb を用ふるは不可である。例へば

He seems *glad* (not *gladly*).

He looked *sad* (not *sadly*).

Velvet feels *smooth* (not *smoothly*).

(参考) 本問題中「Seem', 'look' などの後にあつてその Subject の性質を示す時とあるところが肝腎である、例へば

{(a) He looks *haughty*.

{(b) He looks *haughtily* around.

に於て、(a) は「彼は横柄に見える」の意であつて、従つて後の 'haughty' はその Subject の性質を表して居るからこの場合には 'haughty' と Adjective を用ひねばならない、然るに (b) にあつては「彼は横柄にあたりを見廻はす」の意であつて、従つて後の 'haughtily' はその前の Verb を形容して居るからこの場合には前とは反對に 'haughtily' と Adverb を用ひなければならない、亦實際同じ 'looks' でも (a) の方は文法上所謂不完全自動詞 (Incomplete Intransitive Verb) で 'haughty' はその補足語 (Complement) であり、(b) の方は完全自動詞 (Complete Intransitive Verb) で 'haughtily' は單に之を形容する副詞に過ぎないのである。

273. (a) は「彼は詩人と生れて居た」即ち「彼は生れながらの詩人であつた」の意で、文中の 'a poet' は一種の補足語 (Complement) で、しかもその補足語は

「彼が即ち詩人」とその主語と同じものを指して居るから之は文法上所謂主語の補足語 (Subjective Complement) と稱するもので、従つてその格も亦主格であるが、

(b) は「その女はその子を詩人と見出した」即ち「その子が詩人であることが分つた」の意で、文中の 'a poet' も亦一種の補足語ではあるが、この場合には (a) の場合とは異なり「その女が即ち詩人」ではなく「その子が即ち詩人」、換言すれば文中の客語たる '(her) boy' と同じものを指して居るから、この場合の 'a poet' は文法上所謂客語の補足語 (Objective Complement) であつて、従つてその格も亦 (a) の場合と異なり目的格である。

(c) は「彼は若くして死んだ」即ち「彼は若死をした」の意で、この場合の 'young' は文中の主語たる 'he' に關係して居るから之は所謂 Subjective Complement である、然るに

(d) は「その女は(彼の)若い時に彼に離れた」の意で、この場合の 'young' は文中の客語たる 'him' に關係して居るから之は所謂 Objective Complement と稱するものである。

274. (題意) 次の二つの文の意味の差を示せ:—

'Easy' は形容詞であるから、これは「吾々は

その道を容易いに見出した」即ち「その道は通つて見たら容易かつた」の意であるが、

(b) に於ては 'easily' と副詞になつて居るから、これは「吾々はその道を容易く見出した」の意味である。

(附言) 文法上より言へば (a) の 'found' は所謂 Incomplete Transitive Verb で 'easy' はその Complement であるし、(b) の 'found' は Complete Transitive Verb で 'easily' は之を制限する副詞である。

275. (題意) 次の差を述べよ:—

(a) 'any' と 'some' との差。

(附言) 'Any' と 'some' とは共に副詞としても用ふることもあるけれど、本問に於ては多分單に形容詞(乃至形容詞的代名詞)としての差を問うたものであらうと思ふから、茲にはその積りで答解を附して置く。

1. 物質名詞(乃至抽象名詞)又は複數の普通名詞と共に用ふる時は、通例 'some' は肯定に 'any' は否定、疑問、又は條件の句即ち 'if' の後に用ふ。例へば

Do you want any $\left\{ \begin{array}{l} \text{bread?} \\ \text{apples?} \end{array} \right.$ If you want any $\left\{ \begin{array}{l} \text{bread.} \\ \text{apples.} \end{array} \right.$

$\left\{ \begin{array}{l} \text{(bread)} \\ \text{(apples)} \end{array} \right\}$, I will give you some $\left\{ \begin{array}{l} \text{(bread).} \\ \text{(apples).} \end{array} \right.$

No, I do not want any $\left\{ \begin{array}{l} \text{(bread).} \\ \text{(apples).} \end{array} \right.$

但し 'some' と雖も往々疑問文に用ふることもある

が此場合は 'any' を用ひたとは少し意味が違ふ、即ち

(イ) Do you want *some* apples?

(ロ) Do you want *any* apples?

(ロ) は單純なる疑問であるが、(イ) は「林檎がいらしますか、(まだ少しはいらませう)」(I think you want *some* apples) とその中に自ら肯定の答を豫期する心持がある、そこで他人に物を薦むる時はたとへ形は疑問でも常に 'some' を用ふるのである。

This is very good. Won't you take *some* (少し如何ですか)?

2. 單數の普通名詞と共に用ふる時には 'some' は肯定に、'any' は否定、疑問、'if' の後又は肯定に用ふる。但し同じく肯定でも 'some' を用ひたると 'any' を用ひたるとはその意味が違ふ、即ち 'some' は「誰か」「何か」「何時か」「何處か」と自ら定まれるものを指し、'any' は「誰でも」「何でも」「何時でも」「何處でも」と全く定まらざるものを指す。例へば

{ Bring me *some* book. (何か本を)

{ *Any* book will do. (何の本でも)

{ You must do so *some* time. (何時か)

{ You may do so *any* time. (何時でも)

(b) 'among' と 'between' との差。

'Among' は三つ又は三つ以上のものゝ間を表し、'between' は二つのものゝ間を表す。例へば

He divided his property { *among* his three sons.
 { *between* his two sons.

(c) 'as.....as' と 'so.....as' との差。

'As.....as' は肯定に、'so.....as' は否定に用ふると云ふのが先づ普通の規則である。例へば

{ He is *as* clever *as* his brother.

{ He is *not so* clever *as* his brother.

276. [題意] アンダーラインをしてある形の中寧ろ何れを可とすべきか。その理由をも示せ。

[答]

(a) 'Has' を可とす。

(理由) 'Have been lost' とすべきか又は 'has been lost' とすべきかはその主語によつて定まる、然るに本文にあつてはその主語は前の 'many a captain' である、ところで若しこれが 'many captains' となつて居れば無論その動詞は 'have' としなければならないけれど、'many a captain' ではその實際の数は固より 'many captains' と同一であるにせよ、「幾人も幾人も船長が」とその船長の一人々々に重きを置き、同時には唯一人づゝの船長のことしか考へないからこの場合の 'captain' は單數である、尙この事は現にその後の代名詞の 'his' となつて居ることを見て明かである、従つてその動詞は當然單數 'has' にしなければならない。それからこの主語に 'with all his crew' なる文句が附いて居るのでその船長はたとへ同時には一人しか考へないとしてもその乗組員と一緒にすると餘程大勢になるから或は 'have' とすべきではあるまいかと云ふ疑問が生ずるけれど、'with' が 'and' となつて居れば兎も角、さうでない限りはこの 'with all his crew' の句は何處までも主語の形容句で決してその後の動詞の数には影響は來さないのである。

(b) 'Were' を可とす。

〔理由〕 本文は「若し僕が彼の地位にあつたら、行くのだに」と云ふ意味で實際に於て「僕は彼の位置には居ない (I am not in his place)」と云ふ事實のあるものをその實際の事實に全く相反して「若し僕が彼の地位にあつたら」と假定した。換言すれば現在の事實に相反せる假定を表すからこゝはその動詞は文法上所謂接續法の過去 (Subjunctive Past) を用ひ、主語の人称、数の如何に係らず動詞は常に 'were' と複数にすべきである。

(220 a 参照)。

277. 〔題意〕 井戸へ落ちた人が大きな聲してかう云つた：—
“I will be drowned; nobody shall help me.” ところが誰も彼を助けに來なかつた；その理由は如何。

〔答〕

“I will” は主語の決心を表す形であるから “I will be drowned” と言へばつまり「乃公は溺れ死ぬる決心だ」即ち「身投げをするのだ」と云ふ意味になり、又 “nobody shall help me” と云ふと ‘he shall’ ‘they shall’ の ‘shall’ と同じく亦さう云ふ人の意志を表し、言葉を變へて言へば “I will let nobody help me,” 即ち「誰にも助けさせない」と言ふことになるから誰も助けに來て呉れる人が無かつた筈である。若し誤つて井戸へ落ちて人に助を求めようと思ふならば “I shall be drowned; no body will help me” と “shall” と “will” とを反對に用ふべきである。

278. 〔題意〕 弱變化の動詞とは何ぞ。“Choose” “drink” ……の何れが弱變化の動詞であるか又何れが強變化の動詞であるか之を分類せよ：—

〔附言〕 ‘Weak verb’ とは ‘regular verb’ の別名、‘strong verb’ とは ‘irregular verb’ の別名である。

〔答〕

‘Live’ のみが ‘weak verb’ で、他は皆 ‘strong verbs’ である。

〔参考〕 Live lived lived; choose chose chosen;
drink drank drunk (or drunken); eat ate eaten;
sleep slept slept.

279.

transitive verb	was telling
intransitive verb	came
objects	story, brother

〔備考〕 區別すれば ‘was’ は Auxiliary Verb (助動詞) で、‘telling’ は Principal Verb であるけれど、こんな場合には寧ろ之を合して一つの動詞と見た方が便利だ。それから ‘story’, ‘brother’ は共に Object ではあるが一は ‘was telling’ なる動詞の Object で、他は ‘to’ なる前置詞の Object であることに注意。

280.

〔備考〕 以下三問に對する例は幾つでもあるから、讀者諸君は必ずしも本書の示せる用例に拘束せらるゝ必要は決してない。

Intransitive Verb (自動詞) に preposition (前置詞) を添へて transitive verb と爲し得べきものは有る、例へば

He laughed at me.

に於て ‘laughed’ は元來は自動詞で之に ‘at’ なる前置詞が添うて始めて他動詞の働を爲して居るのである。

281. I have made him my servant.

文中の 'him' は動詞 'have made' の Object で、
'(my) servant' はその Complement である。

282. By that time we had got half through the wood.

「その時迄に吾々は森の中を半分は通り抜けて居た」。

文中の副詞 'half' は 'through' なる preposition を modify (修飾) するとも見らるれば、又 'through the wood' なる prepositional phrase を modify するものとも見らる。

283. [題意] アンダラインせる語を phrase に變ぜよ (問題之部四十九頁参照)。

(a) with ease.

(b) to steal.

(c) of no use.

[参考] 但し (c) の場合には 'of' を取り 'to try' を 'trying' にして 'It is no use trying to.....' とする慣用法もある。

284. [題意] 次の文を解剖せよ。

[備考] 文を解剖 (Analyse) することは即ちその文をば之を組立つる各々の成分に分解してその相互の關係を示す謂であつて、之を爲すには凡そ次の數項に注意するを要す。

1. 劈頭第一その文が Simple であるか、Complex であるか、將た Compound であるかを示し (問題之部四十七—五十一頁参照)。

2. 若しそれが Simple Sentence であるならば、直ちにその Subject と Predicate とを示し。

3. 猶ほその Subject を修飾する Adjective 乃至 Adjective の働を爲すもの即ち文法上所謂 Adjunct (附加語) があるならば之をも示し。

4. 且その Predicate 中のその Verb に伴ふ Object, Complement 乃至之を修飾する Adverb 又は Adverb の働を爲す Adjunct ありば之をも示すべく。

5. 若しそれが Complex であるならば之をその主句 (Principal Clause) と附屬句 (Subordinate or Dependent Clause) とに分ち且その Subordinate Clause の働を示して、然る後その各々の Clause に對し更に前に述べたる Simple Sentence と同様の手續をなすべし。

6. 若しそれが Compound Sentence であるならば、亦之をその組織せる幾つかの Clause に分ちて、然る後その各々の Clause に對し更に前に述べたる Simple Sentence と同様の手續をなすべし。

[附言] (a) Object や Complement にも亦 Adjunct がある時は之をも示すべきである。

(b) 時としてはその文中の略せられたる語を補はねばならぬこともある。

例へば

The sun rose and (the sun) filled the sky with light.

Either he (must go) or I must go.

He is poor, but (he is) honest.

Though (he is) poor, he is honest.

The book (that or which) I want is not here.

(c) Conjunction や Interjection や、呼び掛けの主語 (Nominative of Address) たる Noun は之を省いてよい。

[答]

Subject	I,	I,	who.
Predicate	told him,	had seen a man,	had a red hat.
Phrase	on my way home, on his head.		
Clause	(that) on my way home I had seen a man (who had a red hat on his head). who had a red hat on his head.		

[附言] 本文は全體が一の Complex Sentence で 'I told him' がその Principal Clause, 'that on my way home.....on his head' がその Subordinate Clause で、しかもその Subordinate Clause 自身が亦一

の *Complex Sentence* を成して居りその *Principal Clause* は '(on my way) I had seen a man' でその *Subordinate Clause* は 'who had.....on his head' である。

235.

【参考】本文は「人々は生計を立つる爲めに、何か仕事に従事する」の意味である。

a. 本文は一つの *Complex Sentence* であつて。

b. その *Principal Clause* は前の 'Men.....work', その *Subordinate Clause* は後の 'that.....living', なる *Adverbial Clause*.

c. そして *Principal Clause* の *Subject* は 'men' で 'engage in some work' がその *Predicate* であつて、さうしてその *Predicate* の中 'engage' がその *Verb*, 'in some work' はその *Adjunct* である。

d. 次に *Subordinate Clause* の *Subject* は 'they' で 'may earn a living' がその *Predicate* であつて、さうしてその *Predicate* の中の 'may earn' がその *Verb*, 'living' はその *Object* で 'a' はその *Object* の *Adjunct* である。

【参考】本文は「吾々がその住める國の法律に従ふは吾々の義務であると云ふことはそれは疑を容れないことである」と云ふ意味である。

286. a. 本文も亦一の *Complex Sentence* であつて。

b. その *Principal Clause* は前の 'It does not.....question', *Subordinate Clause* は後の '(that) it is.....we live' なる *Noun Clause*.

【附言】本文の一番最初の 'It' は實は後に來る 'that it is.....' を代表しその次の 'is' に對する形の上の *Subject* でその際の *Subject* は無論後の 'that it is.....' なる *Clause* である。

c. *Principal Clause* の *Subject* は 'It', その *Predicate* は 'does not admit of question' で, *Predicate Verb* は 'admit', 'not' 及び 'of question' はその *Adjunct*.

d. それから *Subordinate Clause* の *Subject* は 'it is our duty' の中の 'it' であるが、しかしこの 'it' は後の 'to obey.....we live' を代表して居る形の上の *Subject* でその實際の *Subject* は矢張その 'to obey.....we live' なる *Phrase* である、そしてその *Predicate* は 'is our duty' で *Predicate Verb* は 'is', 'duty' はその *Complement*, 'our' はその *Complement* の *Adjunct*.

e. ところで本文はその *Subordinate Clause* '(that) it is.....we live' そのものが亦一の *Complex Sentence* で、その *Principal Clause* は 'it (=to obey.....the country) is our duty' で、*Subordinate Clause* は其前の 'country' を修飾する *Adjective Clause* たる後の 'in which we live', そしてその *Principal Clause* の *Subject* は矢張 'it (=to obey the laws of the country)', *Predicate* は 'is our duty', その *Predicate Verb* は 'is', 'duty' はその *Complement*, 'our' はその *Complement* の *Adjunct* で、*Subordinate Clause* の *Subject* は 'we', *Predicate* は 'in which.....live' で、その *Verb* は 'live', 'in which' は之に對する一種の *Adjunct* である。

287. 【題意】次の文を分解 (parse) せよ。

【備考】文を分解 (parse) するとはその文を組立つる各々の語の種類即ちその品詞及びその品詞の細別、並に之の爲せる形の上の變化乃至文中の他の語に對するその關係を明かにすることである。

【附言】更に詳しく言へば之を Parse するに當つては凡そ次の數項に注意するを要す。

1. 各の語の品詞の何たるかを定むるには單にその語の形のみによりては之を定むることは出來ない、その形と共にその意味用法を考ふることが必要である。

2. それから愈その各語の品詞の何であるか分つたら次には

a. *Noun* に就てはその *Class* と、*Modification* 即ちその *Gender, Number, Case, (Person)*, 及びその文中の他の語に對する關係とを示す。

但し *Noun* の *Person* は通例常に *Third Person* であるから特別の場合を除く外は之は示さずともよい。

b. *Adjective* (及び *Article*) に就てはその *Class* と (*Modification* 即ち *Comparison* 上の *Degree*), 及びその他の語に對する關係とを示す。

但し *Article* は之を省いても差支へない。

c. *Pronoun* に就てはその *Class* と、*Modification* 即ちその *Person, Gender, Number, Case* 及びその文中の他の語に對する關係を示し、猶ほ *Relative Pronoun* ならばその *Antecedent* をも示すことを要す。

d. *Verb* に就てはその *Class* と、*Modification* 即ちその *Voice, Mood, Tense, Number, Person* 及びその他の語に對する關係とを示し。

e. *Adverb* に就てはその *Class* (*Modification* 即ち *Comparison* 上の *Degree*) 及びその他の語に對する關係とを示し。

f. *Preposition* に就ては單にその他の語に對する關係を示し。

g. *Conjunction* に就てはその *Class* 及びその他の語に對する關係を示すこと。

【答】*The Definite Article* で '*man*' を modify す。

Man—Common Noun, masculine gender, singular number, nominative case で、'*is respected*' の subject.

is respected—(Regular complete) transitive verb, passive voice, indicative mood, present tense, singular number, third person で、その subject として noun の '*man*' を有す。

because—subordinate conjunction で '*The man is respected*' と '*he has his high commercial name*' との二つの Clause を結合す。

he—personal pronoun, third person, masculine gender, singular number, nominative case, 前の '*man*' を受け次の '*has*' の subject.

has—(Irregular complete) transitive verb, active voice, indicative mood, present tense, third person, singular number で、その subject として前の pronoun の '*he*' を、その object として後の noun '*name*' を有す。

his—Personal pronoun, third person, masculine gender, singular number, possessive case で、後の noun '*name*' を modify す。

high—Qualifying adjective (positive degree) で後の noun '*name*' を modify す。

commercial—亦 qualifying adjective で後の noun '*name*' を modify す。

name—Common noun, neuter gender, singular number, objective case で、前の '*has*' の object.

288. [答]

[参考] 本文は「誰でもその智力の健全に發達せんことを望む者は、先づ道徳上の主義から始めなければならぬ」との意である。

Whoever—Compound Relative Pronoun, Common gender, singular number, nominative case で、そしてこの語はつまり '*anyone who*' と云ふ程の義でその中に自ら relative pronoun と antecedent と二つながら之を含みその relative pronoun たる部分が '*desires*' の subject, antecedent たる部分が '*must begin*' の subject.

desires,—(Regular complete) transitive verb, active voice, indicative mood, present tense, singular number, third person で、その subject は前の '*whoever*' の中に含まれたる relative pronoun, object は後の '*(that) his intellect may grow up to soundness*' なる clause.

that—Subordinate Conjunction.

[附言] こんな場合には '*that*' の前には實は '*the fact*' と云ふやうな語が省かれて居て、従つて '*that.....*' の句はその省かれたる '*the fact*' など、Apposition であるとしてよからう。但しさうすればこの '*that.....*' の句はその '*the fact*' を modify する一種の Adjective Clause となり、前の '*desires*' の Object も亦その省かれたる '*the fact*' と見做すべきことになる。

his—Personal pronoun, third person, masculine gender, singular number, possessive case で、前の '*whoever*' の中に含まれたる antecedent を受け次の noun '*intellect*' を modify する。

intellect—Abstract noun, singular number, neuter

gender, nominative case で、次の '*may grow*' の subject.

may grow—(Irregular complete) intransitive verb active voice, potential mood, present tense, singular number, third person で、その subject は前の '*intellect*' なる noun.

up—(Simple) adverb で前の verb '*may grow*' を modify する。

to—(Simple) preposition でその Object として noun の '*soundness*' を有す。

must begin—(Irregular complete) intransitive verb, active voice, potential mood, present tense, singular number, third person で、その subject は前の '*whoever*' の中に含まれたる antecedent.

with—(Simple) preposition でその object として noun の '*principle*' を有す。

moral—Qualifying adjective で次の noun '*principle*' を modify する。

principle—Abstract noun, neuter gender, singular number, objective case で、'*with*' と云ふ preposition の object.

289. [題意] 次の文中の "*before*" の品詞を示せ。

[答]

- (a) Adverb.
- (b) Preposition.
- (c) Conjunction.

290. (a) Preposition.

[備考] 本文は「彼の外皆逃げた」の意である。

- (b) Conjunction.
- (c) Adverb.

[備考] 此の場合の "*but*" は "*nothing but*" 即ち "*only*" 「單に……に過ぎず」の義である。

- (d) Relative Pronoun.

〔備考〕 此の場合の“but”は“who.....not”の義で、全文は「僕は僕に眞實でない者は誰も見出さなかつた」即ち「皆僕に眞實であつた」の意。

291. 文中の‘that’は (Relative) Pronoun で、さうして最後の前置詞‘of’の Object である。

〔参考〕 We have nothing of which we may be proud.

292. 本文は「僕の最も驚いたことは即ち彼の其所に居なかつたと云ふことである」の義で、文中の‘what’の Part of Speech は Pronoun, その Sub-class (更に細別したる種類) は Relative Pronoun である。さうしてこの語はつまり‘that which’と云ふ程の義で、その一語で‘that’なる Antecedent と‘which’なる Relative Pronoun とを兼ね、その中に含まれたる‘which’が‘surprised’の Subject で、‘that’が後の‘was’の Subject である。

293. (a) This (book) is more interesting than that.
 (b) I have read that book already.
 (c) This is the most interesting book that I have ever read.
 (d) Do you know that this book is very interesting?

〔備考〕 こんな問題は苟くもその所要の條件にだに適合して居るならばどんな Sentence でもそんなことは一向差支へない。

294. Being contented with what he is possessed of, this honest farmer seldom visits a town or a city in search of superfluity.

〔参考〕 原文は Goldsmith の ‘The Vicar of Wakefield’ の P. 14 にある文を改作したもので、つまり「此の律義な百姓共は、自分等の持つて居る物で満足して(居るので)、別に餘分な物を求めに町や都會に行くなど云ふことは滅多になかつた」と云ふ程の意である。それ

から‘Being contented’は少しも變へなかつたが之は此儘で原文では‘As they were contented’の意になるし、改作した方では‘As he is contented’の意になる。

295. (a) He had been ill two days when the doctor was sent for.
 (b) You will improve as long as you work hard.

〔大意〕 「精出して學ぶ限りは進歩するよ」

296. Conjugation.....Regular (Verb).
 Class.....(Complete) Transitive Verb.
 Voice.....Active Voice.
 Mood.....Indicative Mood.
 Tense.....Present (Indefinite) Tense.
 Person.....First (Person).
 Number.....Plural (Number).

〔備考〕 單に Verb の Class と云つた時にはその Complete であるか Incomplete であるかなどは別に示さなくても差支へない。

297. (a) I have nothing to do now.
 (b) You should not have done so.
 (c) I told him not to come to-night.
 (d) You had better not read this book.
 (e) No, I did not wind up the clock yesterday.
298. (a) The teacher told us to be more careful in future.
 (b) It is better to say nothing than to tell a lie.
 (c) He spoke to me about your sickness.
 (d) Please tell him that I want to speak to him.

〔備考〕 共に「言ふ」の意ではあるが、‘say’は「.....と云ふ」とか「.....を

「言ふ」とか云ふ程の義で通例他動詞として用ひ、*‘speak’* は單に「物を言ふ」「話をする」「口をきく」「話す」と云ふ位の義で多く自動詞に用ひ、*‘tell’* は他動詞で「話して聞かす」「知らす」「告ぐる」と云ふ程の義である。但し邦語でも眞實(マコト)は吐(ツ)くと言はぬが嘘(ウソ)は吐くと云ふと同様に英語でも嘘の時は *‘to tell a lie,’* 眞實の時は *‘to speak (or tell) the truth’* と云ふ、それから「……せよと言ふ」と命令の軽いものを示す時その後 *‘to……’* なる *Infinitive* が來る時は何時も *‘to tell’* を用ふる。

〔参考〕 *He speaks much, but says little.*

「しやべることは随分しやべるけれど、實(ミ)のあることは少ない。」

He told me that he had something to say.

「彼は何か言ふことがあると僕に話した。」

I told him that I wished to speak to him.

「僕は彼に話しをしたいと云つた。」

I said to him, "I am very busy."

I told him that I was very busy.

「僕は彼に非常に忙しいと云つた。」

He says too much. 「言ひ過ぎる(過言)。」

He talks too much. 「しやべり過ぎる。」

He speaks too much. 「口數が多い。」

To speak to a person. 「人に話をし掛ける。」

To speak with a person. 「人と話をする。」

To speak of a person. 「人の話をする」「噂をする。」

To speak about a fact. 「そのことに就て(委しい)話をする。」

To speak on a subject. 「問題に就て論ずる。」

299. 〔題意〕 その原の意味は失はぬやうにして、次の文の用法をば成る丈け多くの方法に變ぜよ。

〔備考〕 *Sentence* は之をその *Use* によつて分類すると通例次の四種になることは既に御承知であらう。

1. Assertive (or Declarative) Sentence. (叙述文)

2. Interrogative Sentence. (疑問文)

3. Imperative Sentence. (命令文)

4. Exclamative Sentence. (感嘆文)

ところで本文は元來は一の叙述文であるが、之は此文の性質上命令文には變じやうがない。

〔答〕

(a) Is not this building very imposing?

(疑問文)

(b) How imposing this building is!

(感嘆文)

〔附言〕 (a) に於て *‘not’* の位置を變じて *‘Is this building not very imposing?’* とする「此の建物は非常に立派ではないか(どうか)」と單純なる疑問になつて原文の意味を失ふことになるが、かく *‘not’* を前へ出すと「此の建物は非常に立派でないか(非常に立派であらう)」と自ら肯定の強いものになる。

300. Aft'er, Opin'ion (意見), Sol'itude (孤獨), Per'fect, (完全), In'depend'ence, (獨立), Sev'eral, Delight'ful, (大いに嬉しき), Ar'tifi'cial (人工の), Pleas'ant (愉快なる), Resem'ble (似る)。

〔備考〕 既に上の例でも明かなるが如く語の綴 (*Syllable*) が多くなると *Accent* は一つではなくして二つも或はそれ以上も有ることがある、然る時は通例その中で一番力を入れて發音すべき綴の *Accent* を *Primary Accent* その他のものに附する *Accent* を *Secondary Accent* 及び *Weak Accent* と稱し、さうして之を區別する爲めに通例 *Secondary Accent* の方は *Primary Accent* の方よりは稍小さき記號を附するか又はその記號を二つ重ねる、例へば *‘op’portu’nity’* 又は *‘op’portu’nity,’* 但し辭書によりては *Primary Accent* には上に述べたる記號を二つ附し却つて *Secondary Accent* に記號一つを附し、又は *Secondary Accent* には前のものとは方向反對の (˘) を附してあるものもあり、或は此の煩を避けて單に *Primary Accent* のみ

を示して *Secondary Accent* の方は全然示してないものもある。

801. His'to-ry, prob'a-ble (有りさうな), i-de'a (思想), pur'pose (目的), com'po-si'tion (又は com'posi'tion)。

【参考】語尾が '-tion' や '-sion' で終って居る語はその *Accent* は必ずその前にある。

802. During the reign of George II, a very ski/ful general named Napoleon Bonaparte became very famous in France, and was in the end made emperor of that country.

【備考】'Skillful' 元來 'skill + full' であるから、の前の方の 'l' は今一つ加へて 'skillful' としてもよいが、しかしいづれにしても後の 'l' は一つ省かねばならない。

803.

【参考】参考の爲めに全文の大意を先づ示して置かう。

1. 北國の何處にも熱帯の植物繁茂せる有様とは比較すべき物がない；成程茫々たる亞米利加の風景の色合は愛らしくはあるけれど、その壯觀と云ふ點に於ては到底熱帯の景色に比すべくも無い。
2. 其教師と云ふものは若しさもなくば諸君をして意氣消沈せしむる如き幾多の困難を掃ひ去り、後日に至つて矯正せねばならないやうな幾多の發音上の惡習慣のつくを防いで以て諸君に多大の時間を節約して呉れるものである。
3. 彼は、他の何れの人よりも勝れて(特に)、日本國民、將たそのよつて以て科學的事業に従事せし精神の代表者と見做して差支へなからう。

【答】

(a) 前の 'the tints (in a broad American landscape)'。

(b) *Objective Case*.

【附言】'Save' と云ふ動詞は

I will save you the trouble.

と云ふ風に

I will give you the book.

の 'give' などと同じく往々二重の客語 (*Double Object*) 即ち *Direct, Indirect* の二つの *Object* を取ることもある。

(c) *Adverb*.

【附言】この 'better' の原級は副詞 'well' であつて決して形容詞の 'good' ではない。

804. 【参考】

1. その小徑を一寸曲れば身は忽ち仙境の人となつたが、こゝにこんな所があらうとは百ヤードばかり向ふの人でも氣は附かなかつたであらう。
2. 父の蔵書は主として小説のみで、それは大抵讀みましたが、自分がかくも知識を渴望する念の盛んであつた時に、もつと適當な書物の自分の手に入らなかつたことをそれ以來度々遺憾に思ふことがありました。
3. 吾々は今十五人であつた；寒暖計は氷點下七十五度である、しかも吾々の宿の設備としては唯だやつと八人を收容し得る天幕のみで、吾々の一行の半分以上は他の者の眠つて居る間は外を歩いて以て凍えることを防がざるを得ないと云ふ有様であつた。

【答】

(a) 第一問中の 'existence' は *Objective Case*.

第三問中の 'accommodation' は *Nominative Case*.

【附言】'Existence' は最後の 'would have suspected' なる *Verb* の *Object* であり、'accommodation' は實はその次に前の 'thermometer' と同じく 'being' があるべき筈で、つまりその省かれたる 'being' の意味上の *Subject* で従つて *Case* は何處迄も *Nominative Case* である。文法上所謂 *Absolute Participle* とは即ち是れ。

(b) この 'would have suspected' は文法上所謂 *Potential (or Conditional) Past Perfect* と稱するものでこの中には自ら 'if he had suspected anything' と云ふ程の意味が含まれて、つまり「……しても」と過去の事實に關する假定を表して居るのである。

〔参考〕 You did better than I *could have done* (= I *could have done* if I had done).

「お前はわしがやつてもとて出来ない程に非常によくやつた」。

A pin *might have been heard* to drop.

「針一本落ちて聞える程であつた」。

(c) 前の 'since' は「それ以來」の義の一種の *Adverb* で、後の 'since' は「……したからには」の義の *Conjunction* である。

比較：—

Conjunction :— He has lived with his uncle *since* his father died.

Proposition :— He has lived with his uncle *since* his father's death.

Adverb :— He has lived with his uncle ever *since* (then).

805. 〔参考〕

(1) 要も無いのに約束を破る人は自己の時間に無頓着であると同時に他人の時間に無頓着であることを示して居る。

(2) 僕の知つて居る子供に南京蟲の好きな子があつて：學校に居ないでもよい時は何時でも始終その研究ばかりして居る。

(3) 遁げるなどゝは思ひもよらぬ：窓は餘り高くはないけれど、下には二匹の大きな犬が狼の如く吠えて居る。出来るならば諸君まあその時の余の恐ろしさを想像して見給へ。

(4) 去りながら、見返つて見れば恐ろしい焔は吾々の直ぐ後に來て居て、既に家には燃え附いて居た。

(5) それから又、彼の熱心に望んで居る目的が今一つあつた、そしてそれはナイル河の源を発見すると云ふことであつて、之は遠き昔より一の難問題であつたのである。

(6) 御承知の通り實業家と申す者は相當の擔保がなければ滅多に金を貸すものではありません；さうでなければ直ぐ貧乏になつてしまひませう。

〔答〕

1. 'Another's' は *Pronoun* である。

〔附言〕 更に細かく言へば *Pronoun* の中の *Adjective Pronoun* である。

2. Know knew known.

3. この 'It' は前の 'has a passion for bugs' 即ちその南京蟲が好きだと云ふことを指す。

4. 'Imagine' は *Mood* は *Imperative Mood* で *Tense* は無論 *Present Tense* である。

〔附言〕 *Imperative Mood* は常に *Present Tense* と極つて居る。妙なことを問うたものかな。

5. When making off = when I was making off.

6. 前の 'to discover the sources of the Nile,' 即ちナイル河の源を発見すると云ふことがその *Antecedent* である。

7. これは文中の 'otherwise' の中には自ら、if they (= business men) lent money without adequate security' と云ふ實際の事實に反する假定がこもつて居るから、それに應ずる爲めに—'may' は 'might' と文法上所謂 *Potential Past* にするがよいのである。

比較：—

{ As I am ill, I can not go.

{ If I were not ill, I could go.

306. [参考]

(1) 皆んな知つて居る所である「正直は最上の政策なり(=正直の頭に神宿る)」との諺は、しかし之を以てその行爲の法則となすもの果して幾人かある。

(2) 若し彼にして大學へ入ることが出来たならば、彼は世に名を顯すことが出来たのであらうに(残念なことをした)。

(3) その城砦の中の者にしてまさかの時の覺悟をして居ない者は一人もなかつた。

(4) 諸君は歐羅巴に居る友人と(直接)話をする事は出来ない; 若し出来れば、さうするのだけれど; それでその代りに手紙をやる; つまりそれは(單に)その聲を運ぶ手段に過ぎないのである。

(5) その難儀に搦て、加へて、彼等は飢渴の苦しみを忍ばねばならなかつた。さればとて、猶豫して居ることは到底出来ない; コサツクの騎兵隊はその背後に逼つて居る。眠るなど、はとも思ひも寄りぬ、と云ふのは假令思ひ切つて留つて見たところで、地上に臥せば屹度死ぬることは先づ請合だとは彼等は知つて居たのであるから。

1. この 'know' は *Past Participle* 'is' の (*Subjective*) *Compl. ment* 乃至 'is' と合して一種の *Passive Voice* を成して居るものと見做すべきものである。

[附言] 本文は之を普通の順序に書き直すと

'The proverb, "Honesty is the best policy" is known to all ; ...

となり、その *Subject* は實は後の '(the) proverb' である。

次にこの 'rule' は *Noun* で「それを行爲の法則となす」と 'make' なる *Verb* の (*Objective*) *Compl. ment* である。

2. 'Could have entered' は過去の實際の事實に反する假定を表す *Subjunctive Mood* の *Past Perfect*

Tense で、'might have made' はこの假定に應ずる *Potential (or Conditional) Mood* の *Past Perfect Tense* である。

3. 文中の 'but' は 'who.....not' 又は 'that.....not' の意の一種の *Relative Pronoun* で、この語をこの意味に用ふる場合にはその前には必ず否定又は否定の意を含む句がある。

[附言] 本文は之を書き換へれば

There was not a soul within the fort who was not prepared for the worst.

= Every man in the fort was prepared for the worst.

4. If you could (talk to your friend in Europe) you would (talk to your friend in Europe).

5. 'To add to their sufferings' は文法上 *Absolute Infinitive* と稱し、意味に於ては勿論本文の他の部文と關係あれど文法上より言へば全く獨立せる所謂 *Sentence* の *Independent-element* と稱するものである。

次に 'to lie down on the ground' は合して一の名詞の働をなし、文法上之を *Noun Infinitive* と稱し、所謂 *Sentence* の *Noun-element* に屬し後の 'was (little short of certain death) の *Subject* である。

附 錄

自 大 正 四 年 度
至 大 正 八 年 度

高等專門學校入學試驗問題詳解

大 正 四 年 度

1. Convert the following sentence from Direct to Indirect :—

He said to me, " I was put in jail yesterday." (米高工)

【答】 He told me that he had been put in jail the previous day (or the day before).

2. Give the Past and the Past Participle of the following Verbs :—

(a) forget; (e) hurt; (i) strike;

(b) awake; (f) begin; (j) choose.

(c) lie; (g) hold;

(d) show; (h) cost; (小高商)

【答】 (a) forget (forgot, forgotten); (b) awake (awoke, awoke or awaked)
(c) lie (lay, lain); (d) snow (snowed, snowed); (e) hurt (hurt, hurt); (f)
begin (began, begun); (g) hold (held, held); (h) cost (cost, cost); (i) strike
(struck, struck or stricken); (j) choose (chose, chosen).

3. Correct mistakes :—

The horse ^{ran} away yesterday and kicked whoever ^{stood} in his way. (米高工)

【答】 The horse *ran* away yesterday and kicked whoever *stood* in his way.

4. Change the Voice of the following sentence in two different ways:—
His father gave him a dollar. (廣高師)

【答】 (a) He was given a dollar by his father.

(b) A dollar was given him by his father. (p. 31-32 参照)

5. Write sentences to show the difference between (1) later and latter, (2) older and elder, (3) much and many. (廣高師)

【答】

1. I went there at a *later* time. 「その後」。(時間に就て言ふ)
Such a man is seldom found in these *latter* times. 「近來」。(順序に就て言ふ)

2. He is three years *older* than I. (単に年齢の差に就て言ふ)
He is my *elder* brother. (兄弟姉妹に就て言ふ)

3. He has *much* money. (量)
He has *many* friends. (数)

6. Correct the errors:—

(a) My house has fallen two weeks since. ^{ago}
(b) Water is changed towards steam by heat. ^{into}
(c) The whale is no more a fish than a horse is not.
(d) She could not help from weep ^{at} joy. (海經)

【答】 (a) My house *fell* two weeks *ago*.

(b) Water is changed *into* steam by heat.

(c) The whale is no more a fish than a horse *is*.

(d) She could not help *weeping* for joy.

7. 英文和譯の本文中数字を以て標示せる (1) it (2) it (3) great (4) better の四語に就きその品詞 (Part of Speech) 並に用法を問ふ。

【参考】 英文和譯の本文

[1] A man is apt to imitate himself. The fact that he has done a thing

once, in a certain way, makes it easier for him to do it again in the same way. The oftener this is repeated, the more fixed does the habit become. By and by he cannot do the thing in a different way without great effort. Finally it (1) may become almost impossible for him to do it (2) in a different way.

[11] We see the character of Nelson displayed in his actions. He was ardent and fearless in the line of his duty to an extraordinary extent. No labour or sacrifice seemed to him too great (3) which promised to make him better (4) as a sailor and an officer. (東高師)

【答】 (1) この “it” は *Pronoun* で、後の “(for him) to do it in a different way” なる *Phrase* に係り、本文の意味上の主語。

(2) この “it” も亦 *Pronoun* で、前の “a thing” を指す。

(3) この “great” は *Adjective* で、“labour,” “sacrifice” を間接に形容し、動詞 “seemed (to be)” の *Complement*。

(4) この “better” も亦 *Adjective* で、“him” を間接に形容し、動詞 “to make” の *Complement*。

8. Change the Verb in the following sentence from Active to Passive:—

Your want of courage has much disappointed me. (米高工)

【答】 I have been much disappointed by your want of courage.

9. Give the Past and Past Participle forms of the following Verbs:—

cost; draw; choose; hide; mean; let; wear; bind; sweep.

(米高工)

【答】 cost (*cost, cost*); draw (*drew, drawn*); choose (*chose, chosen*); hide (*hid, hidden*); mean (*meant, meant*); let (*let, let*); wear (*wore, worn*); bind (*bound, bound*); sweep (*swept, swept*).

10. 下の各文に於ける “it” は何を指示すか。

(a) It was he that broke the window.

(b) You can do so, but I do not think it right.

(c) It is doubtful whether he will succeed.

(d) It is no use trying.

(e) How far is it to the station?

(秋鏡)

- 【答】 (a) 後の "that broke the window" を指す。
 (b) 前の "you do so" 即ち「君がさうすること」を指す。
 (c) 後の "whether he will succeed" を指す。
 (d) 後の "trying" を指す。
 (e) 漠然と距離を指す。

11. Explain the difference between the Object and the Complement giving sentences as examples. (専検)

【答】 (題意) 例とし文を示して客語と補足語との區別を説明せよ。

- a. I gave him a dog.
 b. I made him my servant.
 c. He is my servant.

上文中 "him" は何れも客語(詳しく言へば a. に於ては間接客語), "(a) dog" も(直接)客語であるが, "(my) servant" は共に補足語である。即ち既に上例に於て明かなる如く補足語はその文の主語又は客語と同一物であるが, 客語は通例それと別の物である。

12. Change the Voice :—

- (a) We have not heard of him lately. (専検)
 (b) English is spoken in America.

【答】 (a) He has not been heard of lately.
 (b) They speak English in America.

13. Change into the Indirect Narrations :—

He said to me, "Have you received my letter?" (専検)

【答】 He asked me if I had received his letter.

14. Supply proper Prepositions in the blanks of the following :—

- (a) He spoke so low that we could hear nothing (at) the bottom of the hall.
 (b) He could smile (at) their threats : for fortune continued to smile (on) him.
 (c) I congratulate you (on) your success.
 (d) He laughed (at) me (for) my conduct.
 (e) The river (to) which I went (with) my brother abounds (in)

fish ; we took a boat and rowed (on) the stream (against) the opposite bank. (廣高師)

【答】 (a) He spoke so low that we could hear nothing (at) the bottom of the hall.

(b) He could smile (at) their threats ; for fortune continued to smile (on) him.

【備考】 前の方は嘲笑, 後の方は媚笑の心持である。つまり「依然として好運が向いて居たので人々の威嚇も一笑に附して居た」の意。

- (c) I congratulate you (on) your success.
 (d) He laughed (at) me (for) my conduct.
 (e) 149. 参照。

15. 適當なる Preposition を挿入せよ。

- (a) Acquainted.....a person.
 (b) Different.....that.
 (c) Prepare.....action.
 (d) Anxious.....the prize.
 (e) Deprive a person.....a thing. (秋嶺)

【答】 (a) Acquainted with a person.

- (b) Different from that.
 (c) Prepare for action.
 (d) Anxious for the prize.
 (e) Deprive a person of a thing.

16. 下文に於て Imperative Mood の句或は文を他の mood にて書き換へよ。

- (a) Go where you may, you will surely be dissatisfied.
 (b) Please come and see me. (陸士)

【答】 (a) Wherever you may go, you will surely be dissatisfied.

(b) I beg you will come and see me.

17. 下の文の空所に適當の語を挿入せよ。

- (a) What is the matter with you?
 (b) You may make yourself easy about it. (陸士)

【答】 (a) What is the matter *with* you?
(b) You may *make* yourself easy about it.

18. Supply Prepositions:—

- (a) I'll be back ~~by~~ Sunday. (までに)
- (b) He stayed here ~~at~~ five o'clock. (まで)
- (c) He looks young ~~to~~ his age. (の割に)
- (d) This is different ~~from~~ that. (と)

(專檢)

【答】 (a) I'll be back *by* Sunday.
(b) He stayed here *till* five o'clock.
(c) He looks young *for* (or *considering*) his age.
(d) This is different *from* that.

19. Change the following sentences from Direct to Indirect:—

- (a) He said to me, "I will leave you now."
- (b) He said, "I saw this man long ago."

(海經)

【答】 (a) He told me that he would leave me then.
(b) He said that he had seen that man long before.

20. Change the following sentences from Complex to Simple:—

- (a) It turned out that the report was not true.
- (b) He imagined that he was quite safe from danger.

(海兵)

【答】 (a) The report turned out not to be true.
(b) He imagined himself to be quite safe from danger.

21. Complete the following using Prepositions:—

- (a) { They had two battleships (三隻の巡洋艦の外に)
..... *besides three*
- (b) { All my brothers are (三十歳以下)
.....
- (c) { He will lecture this evening (日露戦争に就きて)
..... *on Japanese-Russo war*
- (d) { The ship was wrecked (暴風雨の中に)
..... *in a storm*

(c) { He died ~~of~~ (熱病にて) *fever*
.....
(海機)

【答】 (a) They had two battleships *besides* three cruisers.
(b) All my brothers are *under* thirty (years of age).
(c) He will lecture this evening *on* the Russo-Japanese War.
(d) The ship was wrecked *in* a storm.
(e) He died *of* a fever.

22. Rewrite the following, supplying the proper form of the verbs enclosed in brackets:—

- (a) If they had had more practice, they (win) the race.
- (b) I wish (speak) English as well as you.
- (c) He (be) ill for three days, when the doctor was sent for.
- (d) I (not see) him for the last two or three days. (海兵)

【答】 (a) If they had had more practice, they *would have won* the race.
(b) I wish I *could speak* English as well as you.
(c) He *had been* ill for three days, when the doctor was sent for.
(d) I *have not seen* him for the last two or three days.

23. Supply "shall or "will" in the brackets:—

- (a) What time (*shall*) I visit you?
- (b) I (*shall*) be glad to see you again.
- (c) I fear I (*shall*) not succeed.
- (d) We have decided that you (*shall*) be sent abroad.
- (e) (*Will*) you have a cup of tea? (海機)

【答】 (a) What time (*shall*) I visit you?
(b) I (*shall*) be glad to see you again.
(c) I fear I (*shall*) not succeed.
(d) What have decided that you (*shall*) be sent abroad.
(e) (*Will*) you have a cup of tea?

24. Change the following into the Passive:—

- (a) Do they study German in that school?
- (b) He visited me yesterday. (海機)

【答】 (a) Is German studied in that school?

(b) I was visited by him yesterday.

25. Explain the meaning of the underlined parts of the following sentences:—

(a) I am not a little tired.

(b) I am not in the least tired.

(c) I am a little tired.

(d) I am little tired. (海經)

【答】 (a) 「少なからず……して居る」, 即ち「非常に……して居る」と肯定の強きもの。

(b) 「少しも……して居ない」と否定の強きもの。

(c) 「少し……して居る」と肯定の意味。

(d) 「少しも……して居ない」「餘り……して居ない」と否定の意味。

26. Change the Voice in as many ways as possible:—

(a) He taught me English.

(b) I had him do it. (海經)

【答】 (a) { English is taught me by him.
I am taught English by him.

(b) I had it done by him.

27. Correct the following sentence:—

His work is superior and deserve to be better pay than your.

(小高商)

【答】 His work is superior and *deserves* to be better *paid* than yours (= your work).

28. 下の文に誤謬あらば訂正せよ。

(a) He is the student of High Normal School.

(b) He have went to America. (陸士)

【答】 (a) He is *a* student of *the* Higher Normal School.

(b) He *has* gone to America.

大 正 五 年 度

29. Fill in the blanks in the following:—

(a) He is not so tall (*as*) you are.

(b) I haven't got other books (*than*) these. (海機)

【答】 (a) He is not so tall (*as*) you are.

(b) I haven't got other books (*than*) these.

30. Construct sentences to illustrate the capacity of an Adverb to modify a Verb, an Adjective, and another Adverb. (廣高師)

【答】 (題意) 動詞, 形容詞及び他の副詞を修飾する副詞の能力を説明すべき文を作れ。

He works *hard*. (副詞 "hard" は動詞 "works" を修飾す)

He is a *very* hard worker. (副詞 "very" は形容詞 "hard" を修飾す)

He works *very* hard. (副詞 "very" は他の副詞 "hard" を更に修飾す)

31. Correct the errors, if any:—

(a) I remember I ~~ever~~ ^{have} seen a fox; perhaps it was about five years before. ^{ago} ^{once} ^{he}

(b) Let a man be honest, he will depended upon.

(c) It is natural that he would have done so.

(d) Can you come at some hour to-day? Yes, at any hour you like. ^{time}

(e) Though he is a English, he cannot speak the English with ~~a~~ ease. ^{man} (海經)

【答】 (a) I remember I *have* *once* seen (or remember *once* { *seeing* / *having seen* }) a fox; perhaps it was about five years *ago*.

(b) Let a man be honest, *and* he will *be* depended upon.

(c) It is natural that he *should* have done so.

(d) Can you come at *any* (or some) hour to-day? Yes, at any hour you like.

〔附言〕 多分来られるものと考えて問ふ場合 “some” にても可。

(e) Though he is an *Englishman*, he cannot speak *English* (or the *English language*) with ease.

32. 下の各文の誤を正せ。

(a) No sooner the master had entered into the room than every one was silent.

(b) I met^{met} with him in the street other day.

(c) He asked me if I know her.

(d) If you want a dictionary, I will take it to you from the library.

(秋敏)

【答】 (a) No sooner had the master entered the room than every one was silent.

(b) I met (with) him in the street the other day.

(c) He asked me if I knew her.

(d) If you want a dictionary, I will bring one to you from the library.

33. Correct the errors:—

(a) Though he is American, he can speak the Japanese better than middle-school graduate.

(b) Police station is far from school.

(c) I could have catch him, if he not been armed with pistol.

(d) He, being worked hard, have succeeded in his business.

(e) What is the language speaking in India?

(f) He and his brother is skating at the pond.

(g) I am ashamed for having done so.

(h) I have received a letter from him the last Sunday.

(i) I fear you shall catch cold, if you not change your clothes at once.

(j) When I am thinking of my sick mother, I got telegram telling that she passed away.

(米工)

【答】 (a) Though he is an American, he can speak Japanese (or the Japanese language) than a middle-school graduate.

(b) The police station is far from the school.

(c) I could have caught him, if he had not been armed with a pistol.

(d) He, having worked hard, has succeeded in his business.

(e) What is the language spoken in India?

(f) He and his brother are skating on the pond.

(g) I am ashamed of having done so.

(h) I received a letter from his last Sunday.

(i) I fear you will catch cold, if you do not change your clothes at once.

(j) When I was thinking of my sick mother, I got a telegram telling e that she had passed away.

34. Rewrite the following sentences, correcting the errors:—

(a) He is still ill, but very well to-day.

(b) I have heard of him, but do not see him yet.

(c) He left school for his sickness.

(d) Did your brother present the meeting yesterday? (海兵)

【答】 (a) He is still ill, but much better to-day.

(b) I have heard of him, but have not seen him yet.

(c) He left school on account of illness.

(d) Did your brother present himself at (or Was your brother present) the meeting yesterday?

35. Correct the mistakes in the following:—

(a) What do you prefer, tea or coffee?

(b) Somebody told me, I forget whom.

(c) I did not see him since last week.

(d) He said that the ship has entered port the previous day.

(e) I have read this author's works, who is a great writer. (海機)

【答】 (a) Which do you prefer, tea or coffee?

(b) Somebody told me, I forgot who,

〔理由〕 後の方は實は “who (told me)” の略であるから, “whom” は不可。

(c) I have not seen him since last week.

(d) He said that the ship had entered the port the previous day.

(c) I have read *the works of this author*, who is a great writer.

〔理由〕 関係代名詞と先行詞とは成る丈に接近せしめて置くことが文を明晰にする上に於て肝要である。

36. 下記名詞の女性。

actor, cock, hero, lion, uncle. *heroine, lioness, aunt* (外語)

【答】 *actress, hen, heroine, lioness, aunt.*

37. Change the following from Direct into Indirect, and vice versa.

(a) He said that he had seen that man long before. [Direct].

(b) My servant told me "The rain was falling yesterday." [Indirect].

(米高工)

【答】 (a) He said, "I saw this man long ago."

(b) My servant told me that the rain had been falling the day before.

38. 適當なる助動詞を挿入せよ。

(a) If any of you make a noise they *shall* be punished.

(b) He worked hard that he *might* gain a prize. (秋續)

【答】 (a) If any of you make a noise they *shall* be punished.

【備考】 之は「罰するぞ」とかく言ふ人の意志を表すものとして "shall" を用ひたが、若し單に未來の推量を表すものとせば勿論 "will" を用ふべきである。

(b) He worked hard that he *might* gain a prize.

39. 下の各の phrase の意味を例を擧げて説明せよ。

(a) to inquire for

(b) to inquire into

(c) to inquire after

(秋續)

【答】 (a) He *inquired for* you. 「君は御在宅かと尋ねた。」

(b) He *inquired into* the matter. 「その事件を詮議した。」

(c) He *inquired after* you. 「君は御無事かと尋ねた。」

40. 下の文中にある Absolute Participle を Clause にて書き直すべし。

(a) This done, they all dispersed.

(b) Judging from reports, he must be a great man. (陸士)

【答】 (a) *As this was done*, they all dispersed.

(b) *If we judge from reports*, he must be a great man.

41. 下の文の空所に適當の語を挿入せよ。

(a) It is half past nine *by* my watch.

(b) The book is *of* great importance. (陸士)

【答】 (a) It is half past nine *by* my watch.

(b) The book is *of* great importance.

42. Rewrite the following sentences, supplying suitable prepositions in the blanks:—

(a) What is the matter *with* you?

(b) I am much interested *in* English.

(c) He is suffering *from* influenza.

(d) What has become *of* the man you sent to Tokyo?

(e) Did you go to Osaka *on* business?

(f) When will this ship start *for* Vladivostock? (海兵)

【答】 (a) What is the matter *with* you?

(b) I am much interested *in* English.

(c) He is suffering *from* influenza.

(d) What has become *of* the man you sent to Tokyo?

(e) Did you go to Osaka *on* business?

【備考】 比較:—

{ He went there *on* business. 「用事で」

{ He went there *for* pleasure. 「遊びに」

(f) When will the ship start *for* Vladivostock?

43. Turn the following statements into questions by changing the form of the verb, but keeping the same tense:—

(a) A lark flies high.

(b) The steamer struck on the rock.

(c) The enemy fled away. (海兵)

【答】 〔題意〕 動詞の形を變じしかも時制は變せずして次の文句を疑問に變ぜよ:—

(a) Does a lark fly high?

(b) Did the steamer strike on the rock?

(c) Did the enemy flee away?

44. Give the Past and the Past Participle of the following Verbs:—

Fall; grow; begin. (海機)

【答】 Fall (*fell, fallen*); grow (*grew, grown*); begin (*began, begun*).

45. Change the following into the plural forms:—

(a) This knife does not cut well.

(b) He thinks himself a great man. (海機)

【答】 (a) These knives do not cut well.

(b) They think themselves great men.

46. Insert suitable words in the blanks:—

(a) My mother's illness prevented me from attending the meeting.

(b) We all wish for peace and happiness. We cannot hope for more, and we need not wish for less.

(c) I have never seen so fine a sight.

(d) He was so kind as to take me into his house.

(e) He went out of the room by himself. (海經)

【答】 (a) My mother's illness prevented me *from* attending the meeting.

(b) We all wish *for* peace and happiness. We cannot hope *for* more, and we need not wish *for* less.

【備考】 得んと欲する目的物の前には通例常にかく“for”を置く。序に本文は Auebury 卿の名著“On Peace and Happiness”の開巻第一に在る文句である。

(c) I have never seen *so* fine a sight.

(d) He was so kind as *to* take me *into* his house.

(e) He went out of the room *by* (or *of*) himself.

【備考】 “By”を用ふれば「唯獨り」の意味になり、“of”を用ふれば「獨りで」の意味になる。

47. Rewrite the following sentences, substituting the verb form for the words underlined:—

(a) It is against my inclination to do anything dishonest.

(b) The play gave me much pleasure. (海經)

【答】 (題意) 下に線を引ける語の代りに動詞の形を用ひて、次の文を書き改めよ:—

(a) I am not inclined to do anything dishonest.

(b) The play pleased me much.

48. Rewrite each sentence by putting the underlined parts into emphatic construction with “It”:—

(a) He is said to be rich.

(b) She has seldom wept.

(c) Whenever he was seen he was carrying some books under his arm. (海經)

【答】 (題意) 下に線を引ける部分を“it”を用ひたる意味の強き構文と成して各々の文を書き改めよ:—

(a) *It is he that* is said to be rich.

(b) *It is seldom that* she has wept.

(c) *It was whenever he was seen that* he was carrying some books under his arm.

49. 次の語に對する反對語を擧げよ。

beautiful; ordinary; bitter; satisfied; thin;
deep; visible; late; lazy; wide.

(東高商)

【答】 beautiful (*ugly*); ordinary (*extraordinary*); bitter (*sweet*); satisfied (*dissatisfied*); thin (*thick*); deep (*shallow*); visible (*invisible*); late (*early*); lazy (*active; diligent*); wide (*narrow*).

50. 解釋の本文 (1) に用ゐられたる形容詞を列擧し、その形容せる名詞を指摘せよ。

【参考】 解釋文本 (1)

Every one of us is, as it were, a living fire. Were we not, how could we be always warmer than the air outside of us? There is a process going on perpetually in each of us similar to that by which coal is burnt in the fire, oil in a lamp, and wax in a candle. (東高師)

【答】 Every (“one” と云ふ代名詞を形容す); living (“fire” と云ふ名詞を形容す); warmer (“we” と云ふ代名詞を間接に形容す); similar (“process” と云ふ名詞を形容す)。

51. 解釋の本文 (2) に用ゐられたる動詞を列挙し, Transitive Verb に就きてはその目的 (Object) を指示せよ。

【参考】 解釋の本文 (2)

We should not only do to others as we should wish them to do to us, but think of others kindly as we should wish them to think of us. If we make no allowance for them, how can we expect them to do so for us?

(東高師)

【答】 (should) do; wish (その Object は “them”); to do; think of (その Object は “others”); (should) wish (その Object は “them”); to think of (その Object は “us”); make (その Object は “(no) allowance”); (can) expect (その Object は “them”); to do.

52. By the help of suffixes change the following Nouns into Adjective:—
snow, grace, brother, fool, wood. (廣高師)

【答】 [題意] 接尾語の助を借りて次の名詞を形容詞に變ぜよ:—
snowy; graceful; brotherly; foolish; wooden.

53. 下記名詞の複數。

axis, cargo, chief, copy, leaf, mouse, ox, sheep, terminus, tooth.

(外語)

【答】 axis (*axes*); cargo (*cargoes*); copy (*copies*); leaf (*leaves*); mouse (*mice*); ox (*oxen*); sheep (*sheep*); terminus (*terminuses* or *termini*), tooth (*teeth*).

54. 下記動詞の變化。(Past と Past Participle とを記せ)。

break, cut, find, fly, grow, hide, leave, pay, tear, think, throw, write.

(外語)

【答】 break (*broke, broken*); cut (*cut, cut*); find (*found, found*); fly (*flew, flown*); grow (*grew, grown*); hide (*hid, hidden*); leave (*left, left*); pay (*paid, paid*); tear (*tore, torn*); think (*thought, thought*); throw (*threw, thrown*); write (*wrote, written*).

55. Change the following from Direct to Indirect:—

Kimura said to me, “I shall not see you again.” (專檢)

【答】 Kimura told me that he should (or would) not see me again.

(附録 85 参照)

56. Insert Prepositions:—

He was much alarmed at what he had just heard, and alluded to it as soon as he arrived at my house and alighted from his carriage.

(專檢)

【答】 He was much alarmed *at* what he had just heard, and alluded *to* it as soon as he arrived *at* my house and alighted *from* his carriage.

57. 下の文に誤謬あらば訂正せよ。

(a) The graduation ceremony was taken place the day after yesterday.

(b) Do you think what plan is the better? (陸士)

【答】 (a) The graduation ceremony *took place* the day *before* yesterday.

(b) *Which plan do you think* is the better?

58. Correct the errors, if any:—

(a) I am one of those who cannot describe what I do not see.

(b) Neither of the three will do.

(c) That is the person whom I thought was in fault. (廣高師)

【答】 (a) I am one of those who cannot describe what *they* do not see.

[理由] 後の方の代名詞は前の “those who……” を指す故 “I” は不可。

(b) *None* of the three will do.

(c) That is the person *who* I thought was in fault.

大 正 六 年 度

59. Change the Voice of each Verb of the following sentences :—

- (a) He has written these books.
 (b) English is taught in our school. (熊高工)

【答】 (a) These books have been written by him.
 (b) They teach English in our school.

60. Correct the errors :—

- (a) Please bring me a pen and a paper.
 (b) He is superior than I in writing.
 (c) He has often come here last month. (熊高工)

【答】 (a) Please bring me a pen and a sheet of paper.

【備考】 但し後の方は一の對句と見、定冠詞を省いて單に “pen and paper” とするも可。

- (b) He is superior to me in writing.
 (c) He often came here last month.

61. Correct the errors :—

- (a) I have waiting for last three hours.
 (b) I wish I will success in this business.
 (c) Tell me about anything happened at your school.
 (d) When does he goes to bed in the night?
 (e) This book is the same price as that.
 (f) What have you done to my watch?
 (g) Tiger is fearful animal than panther.
 (h) We sell sugar and egg by pound. (米高工)

【答】 (a) I have been waiting for the last three hours.
 (b) I hope I shall succeed in this business.
 (c) Tell me about anything that happened at your school.

- (d) When does he go to bed at night?
 (e) This book is of the same price as that.
 (f) What have you done with my watch?
 (g) The (or A) tiger is a more fearful animal than a panther.
 (h) We sell sugar and eggs by the pound.

62. Parse any and one in :—

(a) Have you any pens?—No, I have not got any. Is he any better to-day?

(b) One man's meat is another man's poison. One ought to act for oneself. I met one Mr. Jones yesterday. Give me an apple; a big one.

(廣高師)

【答】 (a) Have you any pens?—此の場合の “any” は Adjective。No, I have not got any.—此の場合の “any” は Pronoun。

Is he any better to-day?—此の場合の “any” は「少しは」と云ふ意味の一種の Adverb。

(b) One man's meat is another man's poison. 「甲の薬も乙の毒」——此の場合の “one” は Adjective。

One ought to act for oneself. 「(人)は自分で行動すべきものである」——此の場合の “one” は (“any one” の弱いもので一般の人を表す一種の) Pronoun。

* I met one Mr. Jones yesterday. 「僕はジョンスと云ふ人に昨日會うた」——此の場合の “one” は (“a certain” の意味の) Adjective。

Give me an apple; a big one. 「林檎をお呉れ; 大きいのを」——此の場合の “one” は更に “a big apple” と名詞を繰返すことを避ける爲めに用ひたる一種の) Pronoun。

63. Correct the errors, and give reasons :—

- (a) A boy was set to watch flock of sheeps.
 (b) He is the student of Kumamoto Higher Technical School.
 (c) When has it taken place?

【答】 (a) A boy was set to watch a flock of sheep.

【理由】 前の “flock” は「(羊の)一群」の意味の集合名詞で冠詞を要

し, "sheep" は単複同形であつて "sheeps" と云ふ形は無い。

(b) He is a student of the Kumamoto Higher Technical School.

(解答篇 214. c. 参照)

(c) When did it take place?

(解答篇 214. g. 参照)

64. 次の文章に誤あらば訂正せよ。

(a) This book's price is very high.

(b) Any one can solve a such easy problem.

(c) My fountain-pen is dearer than your.

(d) If you have some money, lend me little.

(e) He told them what he had saw and heard in his dream.

(鹿高農)

【答】 (a) The price of this book is very high.

(b) Any one can solve such an easy problem.

(c) My fountain-pen is dearer than yours (= your fountain-pen).

(d) If you have any money, lend me a little.

(e) He told them what he had seen and heard in his dream.

65. Give the Past and the Past Participle of each of the following verbs:—

(a) Take, (b) Draw, (c) Speak,

(d) Begin, (e) Find. (熊高工)

【答】 (a) Took, taken, (b) Drew, drawn, (c) Spoke, spoken,

(d) Began, begun, (e) Found, found.

66. Change the Voice of each Verb of the following sentences:—

(a) He has written these books.

(b) English is taught in our school.

(熊高工)

【答】 (a) These books have been written by him.

(b) They teach English in our school.

67. 下の文に誤あらば訂正せよ。

(a) He got up lately this morning.

(b) I am knowing him well.

(陸士)

【答】 (a) He got up late this morning.

(b) I know him well.

68. Change the Voice of each Finite Verb:—

(1) I shall perhaps not have finished this work by the time you call on me to-morrow.

(2) You might have been killed, if you had not been protected by me.

(米高工)

【答】 (1) This work will perhaps not have been finished by the time I am called on by you to-morrow.

(2) They might have killed you, if I had not protected you.

69. 下の各文の Voice を變ぜよ。

(a) A fool can teach a wise man wit.

(b) Do they speak French in Belgium?

(秋嶺)

【答】

(a) {(イ) Wit can be taught a wise man by a fool.
{(ロ) A wise man can be taught wit by a fool.

(b) Is French spoken in Belgium?

70. 下の各文に於ける "for" の意義を説明せよ。

(a) He took me for a gentleman.

(b) He looks young for his age.

(c) For all his wealth, he is unhappy.

(d) He has gone home for his dinner.

(e) Some are for peace; others are against it.

(秋嶺)

【答】 (a) 「……の代り」の義より轉じて「……と(して)」の意。

(b) 「… …にしては」 (= considering) と比較の意。

(c) 「……にも拘はらず」 (= in spite of) の意。

(d) 「……を食へに」 (= to take) と目的の意。

(e) 「……に賛成」 (= in favour of) の意。

71. 次の英文中に含まれたる Transitive Verb を摘出しその Object を示せ。

No one will understand our British politics who does not realise that, on the whole and in the main, the men who come to great positions in our

public life are honestly seeking to serve their country. (東高師)

【答】 Will understand. その Object は (our British) politics. does.....realize. その Object は "that, on the whole and in the main," 以下の Clause 全體。

【備考】 但し此の場合 "that....." の前には實は "the fact" と云ふ名詞が省かれて居て、その省かれたる "the fact" がその Object であると言ふことも出来よう。

are.....seeking. その Object は "to serve their country." to serve. その Object は "(their) country."

72. 下の文の空所に適當の語を挿入せよ。

- (a) He started () a journey.
(b) He was honoured () a public funeral after his death. (陸士)

【答】 (a) He started (on) a journey.
(b) He was honoured (with) a public funeral after his death.

73. Give the Past and the Past Participle of the following verbs :—
lie, lay, bear, keep, bite, hit. (海兵)

【答】 Lie (lay, lain); lay (laid, laid); bear (bore, born or borne); keep (kept, kept); bite (bit, bitten or bit); hit (hit, hit).

74. 次の英文中に Complement として用ゐられたる Adjective を列挙せよ。

The gentleman is just as well as firm. He does well what ought to be done well. He forgives or resents duly, but is never revengeful. He is ready to imitate Socrates in this respect. Some one said to the sage, "May I die, unless I am revenged upon you"; to which his answer was "May I die if I do not make a friend of you." (東高師)

【答】 just, firm, revengeful, ready.

75. Write a simple sentence to express your wish using a verb in the Subjunctive Mood. (廣高師)

【答】 [題意] 接続法の動詞を用ひて希望を表す單文を書け。
Heaven help him!

76. Write sentences containing the following words followed by a suitable Preposition :—

capable, delighted, honest, puzzled, qualified. (廣高師)

【答】 The dog is capable of being taught.

I am delighted with your new work (or at the plan of the work).

He is honest with everybody (or in his dealings)

I am puzzled about (or over) the problem.

He is qualified for teaching English.

77. 下の文の意味を Indicative Mood の Verb を用ひて言ひ表はせ。

- (a) He may have done it.
(b) That gentleman cannot be a Chinese. (陸士)

【答】 (a) It is possible that he has done it.

(b) It is impossible that that gentleman is a Chinese.

78. Rewrite, using the Gerund or the Participle :—

- (a) Henry does not remember that he ever told me so.
(b) When we had passed our examination, we returned home. (小高商)

【答】 (a) Henry does not remember ever telling me so.

(b) Having passed our examination, we returned home.

79. 下の各文の誤を正せ。

- (a) I wish I can help you in some way.
(b) He preferred to do this than that.
(c) I feel much sympathy to you.
(d) It is you who is invited.
(e) A diamond is nothing else carbon. (秋鏡)

【答】 (a) I wish I could help you in some way.

(b) He preferred to do this to that.

(c) I feel much sympathy for you.

(d) It is you who are invited.

(e) A diamond is nothing but carbon.

大 正 七 年 度

80. Correct the errors in the following sentences :—

- (a) Hitachi Maru was lost on Indian Ocean.
 (b) He is a most skilful aviator who Japan has ever had.
 (c) When I shall have finished this letter, I will be able to join you.
 (d) Having written the letter, it was posted. (専検)

【答】 (a) The Hitachi Maru was lost on the Indian Ocean.

〔理由〕 船舶や海洋の名の前には定冠詞を要する。

- (b) He is the most skilful aviator that Japan has ever had.
 (c) When I have finished this letter, I shall be able to join you.

(解答篇 214. c. 参照)

- (d) { (イ) Having written the letter, he (she or they) posted it.
 { (ロ) Having been written, the letter was posted.

81. 次の文中点線の箇所へ apt; likely; liable のうち孰れか適當なる語を記入せよ。

- (a) He is from long training to do the right thing.
 (b) Be more careful of your credit sales, or you are to be a serious loser.
 (c) It is to rain to-day.
 (d) The bank is to refuse his paper. (小高商)

【答】 (a) He is apt from long training to do the right thing.

〔意味〕 彼は永年の練習よりして大抵適當な事をするのである。

- (b) Be more careful of your credit sales, or you are liable to be a serious loser.

〔意味〕 掛け賣にもつと注意せよ、さうでないと何時大損をするかも知れないぞ。

- (c) It is likely to rain.

〔意味〕 雨が降りさうだ。

- (d) The bank is likely to refuse his paper.

〔意味〕 あの銀行は彼の手形をば引受けてくれないだらう。

【備考】 要するに "apt" は例へば性急な人は早口に物を言ひ、鐵は兎角錆び易いなど、自然の傾向を表し、"liable" は例へば「船は今にも沈没しさうな」「人は皆得て失敗をし勝ちだ」など、ありさうにしてしかも不利なる事を表し、"likely" は「勤勉なる人は將來成功しさうな」「建物は毀れさうな」など極めてありさうにしてしかも必ずしも有利とも(亦は不利とも)限らぬ事を表す。但しかゝる微妙なる Synonym (同意語)の區別を中學程度の卒業生に課するは如何であらう、餘り賛成の出來ぬ問題である。

82. Tell the past and the past participle of the following verbs :—

- (a) to leave; (b) to arise; (c) to shut;
 (d) to lade; (e) to refer. (小高商)

【答】 (a) to leave.....left, left, (b) to arise.....arose, arisen,
 (c) to shut.....shut, shut, (d) to ladeladed, laden,
 (e) to refer.....referred, referred.

83. Change the voice :—

He should have written with pen and ink the letter which was addressed to his superior. (米高工)

【答】 The letter which he addressed to his superior should have been written with pen and ink.

84. Rewrite each sentence changing the Voice of the Verb :—

- (a) He has made me a handsome present.
 (b) You must send for the doctor at once. (専検)

【答】

- (a) { (イ) A handsome present has been made me by him.
 { (ロ) I have been made a handsome present by him.

- (b) The doctor must be sent for (by you) at once.

85. Change the following sentences from Direct into Indirect :—

- (a) He said to me, "I shall never forget your kindness all the days of my life."

(b) He asked me, "What have you been doing all this time?"

(專檢)

【答】 (a) He told me that he should (or would) never forget my kindness all the days of his life.

【備考】 本来から言へば、かかる場合には "shall" はその儘 "should" となるべき筈であるけれど、それでは "He shall....." など、聯想して一見「.....させる」の觀を呈するので、今日では "would" とするが普通である。

(b) He asked me what I had been doing all that time.

86. 下の各文の括弧内に適當なる語を挿入せよ。

(a) I can not buy it (for) want of money.

(b) He () have died but for me.

(c) You () better go at once.

(d) He is quite independent () my help.

(e) He went there that he () see you.

(秋檢)

【答】 (a) I can not buy it (for) want of money.

(b) You (would) have died but for me.

〔意味〕 君は僕が無かつたら死ぬのであつたか。

(c) You (had) better go at once.

(d) He is quite independent (of) my help.

比較:— $\begin{cases} \text{Dependent on.} \\ \text{Independent of.} \end{cases}$

(e) He went there that he (might) see you.

87. 下記の形容詞及動詞よりその各の抽象名詞を作れ。

(a) brave; (b) noble; (c) beautiful; (d) high;

(e) deep; (f) choose; (g) fail; (h) believe;

(i) judge; (j) invent. (秋檢)

【答】 (a) bravery (武勇), (b) nobility (高尙), (c) beauty (美), (d) height (高さ), (e) depth (深さ), (f) choice (選擇), (g) failure (失敗), (h) belief (所信; 信仰), (i) judgment (判斷), (j) invention (發明).

88. Give the case of each noun:—

Little drops of water make the mighty ocean. (熊高工)

【答】 drops (Nominative Case); water (Objective Case), Preposition "of" の Object; ocean (Objective Case), Verb "make" の Object.

89. Give the past and the past participle of each verb:—

(a) Become (b) Choose (c) Drive

(d) Grow (e) Sleep (熊高工)

【答】 (a) Become.....became; become, (b) Choose.....chose; chosen,

(c) Drive.....drove; driven, (d) Grow.....grew; grown,

(e) Sleep.....slept; slept.

90. Point out all the finite verbs, infinitives, and participles in the following sentences:—

(a) England expects every man to do his duty.

(b) Her little dog, barking impatiently, tries to attract her attention.

(c) Books read in childhood seem like old friends. (熊高工)

【答】 a. Finite Verb.....expects. Infinitive.....to do

〔意味〕 英國は各員その義務を盡さんことを期待す。Nelson が Trafalgar の海戦の際用ひし有名なる信號の文句。

b. Finite Verb.....tries. Participle.....barking. Infinitive.....to attract.

〔意味〕 その女の小さき犬は、もどかしさうに吠え立て、その注意を惹かうとする。序に "barking" は詳しく言へば Present Participle.

c. Finite Verb.....seem. Participle.....read.

〔意味〕 幼時に讀んだ書物は舊友の如き心地がする。序にこの場合 "read (rēd)" は詳しく言へば Past Participle で、その前には "which were" が省かれて居る。

91. 下の文に句讀點を施して適當なる文章とせよ。

What is the matter with that house I wonder look at it do you see the black smoke coming out of the roof of that house now I know all about it the house is on fire. (陸士)

【答】 What is the matter with that house, I wonder? Look at it. Do you see the black smoke coming out of the roof of that house? Now I know all about it. The house is on fire.

92. 下の文を適當に一文章に結合せよ。

I went on a trip to the country.

It was at the close of last term that I went.

I was tired out with hard study then. (陸士)

【答】 I went on a trip to the country at the close of last term when I was tired out with hard study.

93. Insert suitable Prepositions:—

He generally stays.....home.....rainy weather. (専檢)

【答】 He generally stays *at* home *in* rainy weather.

94. Correct the errors:—

(a) He is yet staying at Tokyo, but we expect he will have come back till 10th inst.

(b) You have not to stand idle. See how are we busily!

(c) He can have read the story by heart. (米高工)

【答】 He is *still* staying *in* Tokyo, but we expect he will have come back *by* the 10th inst.

【理由】 事の繼續には “still” を用ふ。「東京」などの前には普通は矢張 “in” を用ふべく、又「.....迄に」と動作の完了には “by,” それから「日」の前には通例常に “the” を附す。

(b) You *must* not stand idle. See how *busy* we are!

【理由】 「.....しなければならぬ」と肯定の時には “must.....” の代りに “have to.....” を用ふることもあるけれど、その否定は “have not to.....” ではない “have not to.....” とすれば “need not.....” 即ち「.....するには及ばぬ」の意味になる。次に附屬疑問句 (Dependent Interrogative Clause) 中に在つては主語と動詞との順序は普通の文と同様である、それから “busily” と副詞を用ひたのは無論誤で、之は “are” の Complement で上文の如く形容詞として “how” の直ぐ次に置くべきである。

(c) He *could* read the story by heart.

【備考】 本文は意味が少しく不明である。單に「そらで讀むことが出来た」の意味ならば上文の如くすべく、若し又之は果してそんな事を言

ふ場合があるか疑はしいが「今迄.....することが出来た」の意味ならば “has been able to read.....” とする。 (参照)

95. Change the Voice of the Verb:—

Many books have been written by him. (専檢)

【答】 He has written many books.

96. Expand the following sentences into a Complex and a Compound one:—

The problem is too difficult to be solved. (専檢)

【答】 { The problem is so difficult that it cannot be solved. (Complex)
As the problem is very difficult, it cannot be solved. (Compound)

97. 下の文に誤謬あらば訂正せよ。

(a) This fact should be bear in mind.

(b) He has procured not any bread. (陸士)

【答】 (a) This fact should be *borne* in mind.

【備考】 但し本文は “You (or We) should bear this fact in mind” と *Active* にすることも出来る。

(b) { He has procured *no* bread.
He has *not* procured *any* bread.

【理由】 かく “not” と “any” と續く時は常に “no” とする。

98. 次の英文中の主要動詞を指摘し且つその變化を示せ。

The same object, or the same incident, observed with equal attention by two different men, will awaken in their minds entirely different impressions, deeper and wider in proportion to all that they have previously learned, not necessarily from books alone. (東高師)

【答】 observed (*observe, observed, observed*); awaken (*awaken, awakened, awakened*); learned (*learn, learnt or learned, learnt or learned*).

99. 次の英文中に在る三箇の “would” の用法を説明せよ。

If I were a boy again, I would school myself into a habit of attention; I would let nothing come between me and the subject in hand. I would remember that an expert on the ice never tries to skate in two directions.

(東高師)

【答】文中“would”は三つ共何れも前の条件を受け「若し云々であつたら……しやうに」と主語の意志を表す。

100. What is the difference of meaning between the two forms, “He is gone” and “He has gone”?

(廣高師)

【答】He is gone. 「彼は行って(しまつて)居る(もう此處には居らぬ)」と状態に重きを置く。

He has gone. 「彼は行ってしまつた」と「行く」と云ふ動作そのもの、完了に重きを置く。

101. Correct the errors, if any:—

(a) This is more preferable than that.

(b) A too great variety of studies confuse the mind.

(c) Put it on to the table and there let it lay.

(廣高師)

【答】(a) This is preferable to that.

(b) Too great a variety of studies confuse the mind.

(解答篇 246. c. 参照)

(c) Put it on to the table and there let it lie. (解答篇 249. a. 参照)

102. 次の英文中“how rude it is”のitは何を指すか。

I dare say I need not tell you how rude it is to take the best place in a room, or to seize immediately upon what you like at table, without offering first to help others, as if you considered nobody but yourself. (高師)

【答】文中“it”は後の“to take ...nobody but yourself”全体を指す。

103. 下の括弧内に挿入すべき適當なる英語を記せよ。(海兵)

注意—括弧外の英文は答案に記するを要せず。

1. We have (一箇月の) holiday in summer.

【答】a month's.....

【備考】時間を表す名詞はかく所有格となり得ることは既に御承知であらう。

2. Where did you get (君の其本を)?

【答】.....that book of yours?

【備考】“.....your that book”は不可。

3. Three escaped, the rest (捕へられた)。

【答】.....being (or were) captured.

【備考】文中“the rest”は形は單數でも此の場合意味が複數であるから、矢張複數として取扱ふことに注意。

比較:—
 { The rest of the water was thrown away. (單數)
 { The rest of the apples were thrown away. (複數)

4. We are going (君と同じ汽車で)。

【答】.....by the same train as you (or that you do).

【備考】かゝる場合“by the same train with you”とするは不可。

5. The gallant seamen laid down (國の爲に其生命を)。

【答】.....their lives for their country (or for their country's sake).

6. Won't you come this evening? (はい、参りません)。

【答】No, I will not.

【備考】「はい」とあるもその次が「参りません」と否定であるから矢張“No”を用ふることを忘れてはならぬ。

比較:—
 { Will you go? { Yes (はい), I will.
 { No (いいえ), I will not.
 { Won't you go? { Yes (いいえ), I will.
 { No (はい), I will not.

要するに“Yes”を用ふるか“No”を用ふるかはその次に來るべき文句が肯定であるか否定であるかによつて定まるもので、邦語の「はい」に當らうが「いいえ」に當らうがそんな事は敢て關する所でない。

7. Which of the two do you prefer? (何ちらでも宜しい)。

【答】Either will do.

【備考】かく“either”は「どちらでも」と二つの物に就いて用ひ、“any”は「どれでも」と三つ以上の物に就て用ふるに注意。

比較:—
 { You may take either of the two.
 { You may take any of the three.

8. He has found two houses, (一つは五室今一つは六室の)。

【答】....., one with five rooms and the other with six (rooms).

【備考】下の差に注意。

Both my brothers are abroad, *one* in England and *the other* in America. (どの兄弟が英國に居るか米國に居るか之丈けでは分らない).

Both Tarō and Saburō are abroad, *the one* (=Tarō) in England and *the other* (=Saburo) in America. (此の場合「前者」「後者」の義で、どの兄弟か明かであるのである)。

9. Can you speak French? (否、話せれば宜いですが)。

【答】.....*No; I wish I could (speak it).*

【備考】此の場合は一見“*No*”が肯定に伴はれて居るやうであるけれども、本文の“*No*”は實は直ちにその次の“*I wish I could.*”に續くのではなくその間には“*I cannot (speak it)*”が省かれて居るものと見なければならぬ。従つてこんな場合には *Comma* の代りによくかく *Semi-colon* を用ふ。

10. The electric cars run (十五分毎に)。

【答】.....*every fifteen minutes;once in fifteen minutes;at intervals of fifteen minutes.*

11. Mrs. Wilson wrote to us that (四月四日に安着した)。

【答】.....*she had arrived safe (or safely) on the 4th of April (or on April 4).*

【備考】前の“*wrote*”に對しその「着した」ことは更にそれよりも前なることを示す爲めかく過去完了を用ふることを忘れてはならない。序に“*safe*”と形容詞を用ふればその着いた時の當人の状態を表し、“*safely*”と副詞を用ふればその着いた有様を示すことになる。

12. I shall be so glad, (御役に立てば)。

【答】.....*If I can be of any service to you.*

【備考】本文は約めて單に“*to be of any service to you*”とすることも出来るが、しかしさうするとその前の *Comma* は不要になる。

13. But for the gallant Japanese, (英國の商船は沈められたのだ)。

【答】.....*the English merchant ship (or merchantman) would have been sunk.*

【備考】文首の“*But for.....*”は「.....微りせば」「.....が無かつたら」と過去の事實に反する假定を表し、つまり“*If there had not been for.....*”の約まつたものであるから之に應じて動作を示す結果の句も亦かく過去完了にする必要がある。

14. (何處へ彼が行くのか) is not known to any one.

【答】*Where he will go (or is going).....*

【備考】本文の前半は純然たる疑問文ではなく「何處へ彼が行くのか誰にも知れて居ない」と文法上所謂附屬疑問句 (*Dependent Interrogative Clause*) であるから主語と動詞との順序は通常の叙述文と同様である。

比較:—
 { Who is he?
 { Do you know who he is?

15. (人は何と云はうか), I will do my duty.

【答】*Whatever (or No matter what) people (or others) may say (of it),....*

大 正 八 年 度

104. Change the following sentences from the Direct into the Indirect Narration:—

(1) He said, “I have waited for you.”

(2) The teacher said to me, “America was discovered by Columbus.”

(3) The child said, “I am seven years old now.” (桐高染)

【答】(1) He said that he had waited for me.

(2) The teacher told me that America was discovered by Columbus.

(p. 38. 参照)

(3) The child said that it was seven years old then.

105. Convert the following quotations from Direct into Indirect, and vice versa:—

1. I said that I was going to call on him that day.
2. His advice was, "You will some day regret it." (米高工)

【答】 1. I said, "I am going to call on him to-day."

2. His advice was that I should some day regret it.

106. Correct the errors, if any:—

1. Will I be punished, if I smoke in the room?
2. School begins at 8.
3. When have you returned home? (米高工)

【答】 1. Shall I be punished, if I smoke in the room?

〔理由〕 罰せられると罰せられぬとは先方の意見によることである。殊に "Will I.....?" は「乃公は如何する積りか」と言はゞ自分の考を他人に問ふ形で、之は通例用ひない。

2. 此の儘でよし。

〔理由〕 この "school" は「學校(の授業)」の意であるから固より冠詞は不要、それから例令「七時から」と言つても "to begin" の後には "from" は使はぬ。

3. When did you return home? (解答篇 214. g. 参照)

107. Fill the blanks in the following sentences:—

- (a) It is very kind () you to come and see me.
- (b) This is different () that.
- (c) I care not () you go () stay.
- (d) Always be prepared () the worst. (東高工)

【答】 (a) It is very kind *of* you to come and see me.

(b) This is different *from* that.

(c) I care not *whether* you go *or* stay.

(d) Always be prepared *for* the worst.

108. Change the Voice of the Verbs:—

- (a) They laughed at him.
- (b) He was taken care of by his friends.
- (c) This book has interested me.
- (d) We have not heard of him lately. (東高工)

【答】 (a) He was laughed at by them.

(b) His friends took care of him.

(c) I have been interested by this book.

(d) He has not been heard of (by us) lately.

109. Fill up the following blanks:—

- (1) He has come to town () business.
- (2) We worked hard () we should fail.
- (3) I was robbed () my watch.
- (4) He was taken ill () drinking too much. (桐高染)

【答】 (1) He has come to town *on* business.

比較:—He has come to town *for* pleasure.

(2) We worked hard *lest* we should fail.

比較:—

- { He works hard *lest* he should fail.
- { He works hard *that* he may not fail.
- { He worked hard *lest* he should fail.
- { He worked hard *that* he might not fail.

(3) I was robbed *of* my watch.

(4) He was taken ill *from* drinking too much.

110. Correct the errors, if any, in the following sentences:—

- (1) I was very surprised to hear him said so.
- (2) Those who did not knew her asked who is she.
- (3) He is learning English these five years. (桐高染)

【答】 (1) I was *much* surprised to hear him *say* so.

(2) Those who did not *know* her asked *who she was*.

(3) He *has been* learning English these five years.

111. 適當なる前置詞を挿入せよ。

- (a) You are taller than I — two inches.
- (b) This dictionary is suitable — my purpose.
- (c) He has long been ill — fever.
- (d) We must take advice — that matter.

(c) I am acquainted — him. (秋鏡)

【答】 (a) You are taller than I *by* two inches.

(b) This dictionary is suitable *for* my purpose.

(c) He has long been ill *of* fever.

(d) We must take advice *about* (or *on*) that matter.

112. 括弧内にある動詞の適當なる tense を記せ。

(a) I not (see) him for several days.

(b) He did not say when he (come).

(c) He wrote to me, that he (arrive) safely. (秋鏡)

【答】 (a) I *have* not *seen* him for several days.

(b) He did not say when he *would* come.

(c) He wrote to me, that he *had* arrived safely.

113. 各文の誤を正せ。

(a) He does not obey to my words.

(b) I was prevented to do my work.

(c) They struck him on the face.

(d) This is the book of that I often spoke.

(e) No sooner we have left the house, than it began to rain. (秋鏡)

【答】 (a) He does not *obey* my words (or *me*).

(b) I was prevented *from* doing my work.

(c) 誤無し。

(d) This is the book that I often spoke *of*.

(e) No sooner *had* we left the house, than it began to rain.

114. Tell the part of speech of each word in the following sentence:—

The Alps are far grander than these mountains. (熊高工)

【答】〔題意〕 次の文中の各語の品詞を示せ。

The (Article) Alps (Noun) are (Verb) grander (Adjective) than (Conjunction) these (Adjective) mountains (Noun)

115. Rewrite the following sentences changing each verb into the passive voice:—

(a) All believed him to be an honest man.

(b) He told us many stories. (熊高工)

【答】〔題意〕 各動詞を受動態に變じて次の文を書き變へよ。

(a) He was believed (by all) to be an honest man.

(b) { (イ) Many stories were told us by him.

{ (ロ) We were told many stories by him.

116. Give the past and past participle of each verb:—

(a) Drive (b) Eat (c) Fly

(d) Put (e) Sink (熊高工)

【答】 (a) Drove, driven, (b) Ate, eaten, (c) Flew, flown,

(d) Put, put, (e) Sank, sunk.

117. Correct the errors:—

(a) There was so many attending the game that we can not get a seat.

(b) In diligence he is inferior than none.

(c) Tell me a name of the boy to whom you met. (熊高工)

【答】 (a) There *were* so many attending the game that we *could* not get a seat.

〔理由〕 文中 “many” は實は “many people (= persons)” で、形は單數でも意味は複數であるから “was” は當然 “were” とすべく、後の “can” は前の “were” との関係上亦 “could” と過去にすべきである。

(b) In diligence he is inferior *to* none.

(c) Tell me *the* name of the boy *whom* you met.

〔理由〕 後の “met” 「...に遇うた」は此の場合他動詞で “to” は不要。

118. Combine the following statements into one sentence:—

Three ships sailed. They were small ships. They sailed from Liverpool. Liverpool is a seaport town. It is in England. They sailed on the 5th of May. It was in the year 1918. (海機, 經兵)

【答】 Three small ships sailed from Liverpool, a seaport town in England, on the fifth of May, in the year 1918.

119. Correct the errors in the following sentences:—

1. You can hire the boat by hour.

2. He insisted to have his money paid.
3. The beef is more nourishing than the fish.
4. He asked the station-master to his luggage.
5. They just drove the cows to the pasture.
6. He determined that he shall work hard.
7. We are much obliged by you to your help.
8. I have finished the book last night.

(海機, 經兵)

【答】 You can hire the boat by *the* hour.

2. He insisted *on having* his money paid.
3. *Beef* is more nourishing than *fish*.
4. He asked the station-master *about* his luggage.
5. They have just *driven* the cows to the pasture.
6. He determined that he *would* work hard.
7. We are much obliged *to you for* your help.
8. I *finished* the book last night.

120. Fill in the gaps in each section below with suitable forms of the italicized word:—

1. To make from; to make of; to make with.
 - A. This table wood.
 - B. The boy.....a kite.....a knife.
 - C. Wine.....grapes.

2. To have on; to put on.

- A. I am.....a coat now.
- B. What dress is that you.....?

3. Germany; the German; German; a German.

- A. What is.....for "book"?
- B. He is.....
- C. He speaks.....well.

(海機, 經兵)

1. A. This table is *made of* wood.
- B. The boy *made* a kite *with* a knife.
- C. Wine is *made from* grapes.

【備考】 A. は材料の形態を變ぜぬ時に用ひ, C. は之を變ずる時に用ひ,
B. は之を作るに用ふる道具を表す。

2. A. I am *putting on* a coat now.
- B. What dress is that you *have on*?

【備考】 前者は「着る」と云ふ動作を表し, 後者は「着て居る」と云ふ状態を表す。

3. A. What is *the German* for "book"?
- B. He is *a German*.
- C. He speaks *German* well.

121. Change the Narration:

My father in Kyoto wrote to me, saying, "Your letter arrived yesterday." (專檢)

【答】 My father in Kyoto wrote to me that my letter had arrived the day before (or the previous day).

122. Change the voice of the verb:

Many books have been written by him. (專檢)

【答】 He has written many books.

123. Change into a Complex Sentence:—

This problem is too difficult to be solved. (專檢)

【答】 This problem is so difficult that I cannot solve it.

124. Insert suitable Prepositions:—

He generally stays — home — rainy weather. (專檢)

【答】 He generally stays *at* home *in* rainy weather.

125. 下の文の意義を變ぜずして横線を施せる部分を clause に書き改めよ。

a. To hear him talk, one would take him for a fool.

b. Without air, no living thing could exist. (陸士)

【答】 *If one were to hear him talk*, one would take him for a fool.(b) *If there were no air*, no living thing could exist.

126. 下の文の意義を變ぜずして省略し得る語を省略せよ。

a. Make haste in order that you may see it!

b. When I was young, I was very proud. (陸士)

【答】 a. Make haste to see it.

b. When young, I was very proud.

127. Correct the errors.

(a) He was angry at me asking him the question.

(b) The friends separated and walked in two opposite directions.

(c) If you want to vote, you had better hurry, for you have not scarcely a moment left. (廣高師)

【答】 (a) He was angry with (or at) me for asking him the question.

(b) The friends parted and walked in opposite directions.

(c) If you want to vote, you had better hurry, for you scarcely have a moment left.

128. Distinguish the use of one in the following sentences.

(a) "You seem to be a close observer, sir."

"Necessity has made me one."

(b) One may take a horse to a river, but cannot let him drink from it if he does not care for.

(c) One morning he awoke and found himself a ruined man. (廣高師)

【答】 (a) 本文中の "one" は更に "a close observer" を反覆するの拙を防ぐ爲めに用ひし一種の Pronoun。

〔附言〕 本問中の "let" は宜しく "make" と改むべきである。

(b) 本文中の "one" は "any one" の稍弱きもので一般の人を指し亦一種の Pronoun。

(c) 本文中の "one" は "a certain" (one morning=on a certain morning) 即ち「或る」「さる」「とある」など云ふ意味の形容詞。

129. Analyze the following sentence.

Live as though life were earnest, and life will be so. (廣高師)

【答】 本文は Compound Sentence であるから、先づ

(イ) Live as though life were earnest } Clause.

(ロ) Life will be so }

and..... (この二つの Clause を繋ぐ) Connective.

の三部に分ち更に

(イ) を解剖して

{ Subject.....(命令文であるからその Subject たる "you" は書かれて居る)
Predicate { Finite Verb.....live
Modifieras though life were earnest

この Modifier を更に解剖して

{ Subject.....life
Predicate { Finite Verb.....were
Complement.....earnest
Connective.....as though

(ロ) を更に解剖して

{ Subject.....life
Predicate.....will be
Complement.....so

文 法

130. (1) 下記解釋の本文中に在る次の語の品詞を問ふ。

telegraphy overhead (以上第一問)

what until helpless (以上第三問)

(2) 下記解釋の本文に就き Adverb の役をなす Phrase 及び Clause の例各二個を擧げよ。(東高師)

解 釋

(1) Wireless telegraphy now flashes its messages in all directions through the air, motorcars fill our streets and whiz along our country roads, and finally, most wonderful of all, the airmen have appeared, sweeping and circling in the sky far overhead with their marvellous flying machines.

(2) "But remember, boy," he said with a smile, "never boast of

catching a fish until it is on dry ground. I've known older folks to do that in more ways than one and make fools of themselves. It's no use to boast of anything until it's done—nor then either, for it speaks for itself."

(3) A bad habit is the last thing that most of us are afraid of. We think that we are acting always from our choice, that it is no matter what we do now, because another time, whenever we wish, we can do differently. But all the while a certain habit is forming and hardening, until at last we find ourselves helpless.

【答】 1. telegraphy (*Noun*) overhead (*Adverb*)

what (*Pronoun*) until (*Conjunction*) helpless (*Adjective*)

{ Adverb の役をなす。Phrase.....in all directions; through the air.

2. { Adverb の役をなす。Clause.....until it is on dry ground; whenever we wish.

大正九年四月十日印刷
大正九年四月十五日發行

不許複製

英文法は斯の如く學修せよ

定價金壹圓參拾錢

著 作 者 間 崎 勝 義

發 行 者 樫 村 喜 久 太 郎
東京市神田區小川町四十一番地

印 刷 者 高 木 恒 吉
東京市京橋區宗十郎町十五番地

印 刷 所 合 資 會 社 東 京 國 文 社

發 行 所 敬 文 館
東京市神田區小川町四十一番地
(振替東京一二三三六)(電話神田三六七七)

學生參考叢書

斯界空前の産物たらん。
 稿を起して茲に本書成る、平易巧妙なる譯文は著者獨特の明快なる解説と相待つて蓋し
 評を博せしも篤學にして熱心なる著者は之を以て猶足れりとせず、断然舊版を捨て去歲新
 及中學上級生に取り必讀の書たる知るべきのみ。著者曩に之が譯註を試み盛んに江湖の好
 立學校入學試験問題にして同書より選出せられしもの實に枚舉に遑あらず、又以て受験生
 ユニオン第四讀本は標準讀本中の標準讀本たること世既に定評あり、既往二十餘年間諸官
 袖珍美本
 總クローズ
 約三百五十頁

對照 ユニオン 第四講義

間崎勝義先生譯註

上卷金壹圓參拾錢 中卷金壹圓四拾錢 送料各六錢

對照 ライフ アンド デウテイ 詳解講義

間崎勝義先生譯註

定價金壹圓貳拾錢 送料 金 八錢

三百二十頁
 四六版上製

學生參考叢書

野口秀敏先生著

詳解 算術模範例題解法

送料 金 八錢
 定價金壹圓五拾錢

家の好參考書たるを疑はず。
 關する諸學校の學生諸君に必要缺くべからざる良書、數學科教官各位の好資料、實地從業
 機、土木工學、電氣等、其他工業上の實例に取りて、應用解釋したるものにして、工科に
 交渉である。然るに本書は數學を實用に供する目的として編纂したるものにして、機械、汽
 從來は數學を學ぶに、算術、代數、幾何、三角法等個々獨立であつて、其應用に就ては没
 工業科用 實用 數學
 商船學校教授 宮崎忠保先生新著
 類 美 本 送料 金 八錢
 四六版上製 定價金壹圓五拾錢

化學は斯の如く練習せよ

學習院教授 理學士 小林盈一先生新著

類 美 本 送料 金 八錢
 中版上製 定價金壹圓五拾錢

者に無二の好伴侶たると共に中等化學學習者の良參考書なり。
 に附録には諸官立學校入學試験問題の解答及種々の重要な事項あり、實に入學受験準備
 理論の説明等に特に意を用ひて編纂せられたるものにして、行文平易、説明懇切、加ふる
 習して應用計算問題に臨めんと、著者が多年育英の経験より、新しき試みを以て項目の排置、
 本書は單なる化學講義書に非ず、斯の如く要を摘んで化學を記憶せよ、斯の如き計算を練

學生參考叢書

再版

にせんか漢文學習難の聲は忽ち其跡を絶つに至るべし各項に分ち殊に漢文評釋試験問題解答の二章は著者特得の筆にて學習者一度本書を手編論より首部名稱、字首假名遣、用字格虛字實字助字、副詞漢文和譯例、故字熟語正著者漢文學習者に適當の参考書なきを憂ひ多年苦心の結果著述せるものにて其説く所

漢文は斯の如く研究せよ

東京芝中學校教授 堤達也先生著

頗美本 送料 金 八 錢
中判上製 定價 金 壹 圓 貳 拾 錢

生の良參考書・青年團好適讀本なり。

字典等を備ふるの必要なし、故に本書は 中學生 好伴侶 獨學者 指針・受験

に至るまで本書一冊を有すれば何等の辭書 には一々振り假名を施し之に明快なる註釋を加へたれば如何なる難澁の漢文も白文漢詩

中學漢文讀本自修書

前秋田縣大館中學校教頭 堤達也先生 共著
東京府豐島師範學校教諭 久米卯之彦先生 共著

送 料 金 八 錢
定價 金 壹 圓 貳 拾 錢
紙數 各 六 百 餘 頁

原文の部(至五年程度)全部出來
和譯の部(自一年程度)

學生參考叢書

べし。

り。然も其の内容の至高なるに反比例する至廉の價格は又以て諸君を満足するに十分なる其の内容の完美せるに驚喜し、即刻一本を購ふて諸君の書籍中の權威たるべきを信するな

受驗用 代數の解法

四百頁 送料 金 八 錢
四六版上製 定價 金 壹 圓 三 十 錢

早稻田大學教授藤野了祐先生著

無二の好參考書であらうと信する。

しめんことを期したるものにして、蓋し破天荒の快著、中學上級生乃至受驗生に取用唯一

對照和文英譯普通の誤

頗美本 送料 金 六 錢
三六版上製 定價 金 七 拾 五 錢

間崎勝義先生著

學生參考叢書

間崎勝義先生譯

アトキテックス
オツフェイト
詳解講義

送料
金八
四六版上製類美本
圓錢

の眞價を知るべし。
殊に從來先生の老練なる教授を受けたるもの、登第者の多きは其例影からすまた以て本書
異にして如何なる難解の問題も諸君は親しく巧妙なる教師の講義を聞くが如く氷解すべく
しき工夫の試みにして項目の排置、説明の方法、問題の釋義等從來の講義とは大に其撰を
著者は關西育英界に於ける數學家の雄鎮なり、本書は多年其實際上の經驗より得たる新ら
解義の部送料金八錢
問題の部定價各金壹圓五拾錢

代數は斯の如く解義せよ

福岡縣立中學修猷館教諭 眞邊仙一先生著

と思ふ諸君には是非御一讀を御すゝめ致します。
大方で注意しなればならぬ事は丁寧親切に説明してあります、代數を本當に呑み込まう
致で誰が讀んでも、はつきり分る様には金部漏さず載せ、其内の重なるものには解き方から
此の講義は學識豊富な上に講義に獨得の技倆ある天野先生が教場で講義する通りに言文一
致で誰が讀んでも、はつきり分る様に色々工夫研究せられたもので、その中には問題の方から

代數の講義

學習院教授 天野一之丞先生著

上製上卷金壹圓八拾錢
下製下卷金壹圓八拾錢
並製上卷金壹圓五拾錢
送料各金八錢

323
336

終